青鞜

二月號

大正三年二月一日發行（毎月一回一日發行）第二號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

二月號目次

詠草の中より（短歌）……一……柴田かよ
雪……（短歌）……二……三ヶ島葭
ソニア●コヴァレフスキィの自傳……三……野上彌生子譯
梅のにほひ…（戲曲）……二八……小林哥津
我が生きかた（感想）……四七……西崎花世
電燈……（詩）……六一……與謝野晶子

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

別後……（短歌）……六四……齋賀琴
イワノフ……（戲曲）……七一……瀨沼夏葉譯
出奔……（小說）……九一……伊藤野枝
獨立するに就いて兩親に……一〇三……らいてう
編輯室より……一一六……
書籍紹介
寫眞　靑鞜社の人々

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

らいてう　白雨　荒木郁　中野初　岩野清　小林哥津

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

詠草の中より

――柴田かよ――

もの思へば
身じまふことも味きなや
またをくれ毛の頬にかゝれる

むづがゆき
凍傷のゆびかいなでつ
わびしくもする日向ぼこかな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

雨の路

離ればなれの心もて
歩ゆめるはしに見出でたる灯よ
ひきがへる
夜のふかめればことことと
鳴き出でてわが惱みを誘ふ
夜の寐ざめ
何とも分かぬ物の音の
ひしひしと身に泌み渡るなり
くづほるゝ
心の上にうす黃なる

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

冬の陽ざしは擴ごりて落つ
ともかくも
際だつほどのくるしみの
なかりし事を喜びて寐む

ほのぐらき
夕の部屋よ染々と
われの心の底冷えを知る

嫁ぎ來て
いくとせ經けむ髮かきの
つげの小櫛も古りにけらしな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

灯とせば
心明るく燃え出でぬ
炭のくすぶる夕の厨

みつ豆の
匂ひに似たる物の香の
流れ來るなり三田の戀しき

色もとゆひ
たばねしまゝに紅の
色の古りしに似たる我かも

ほろほろさ
白山茶花のはながちる

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

今日の心よ靜かにあれかし

やはらかに
額にふれたる唇に
うはずり染めし心ならねど

逢ひに來て
たまたま君の殘せるは
吸ひつくしたる烟草の袋

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

雪

——三島ケ葭——

濁なき心と君に思はるることの我には堪へがたきかな

癒ゆべきか癒えざるべきが君見る日十日に迫り我病みて伏す

何ものゝ諭しがたしと神は今わが身を病ませ君を護るか

我病むか君が招く日きりぎしの枯草の根をつかみたるまま

身立たずば心ばかりもまゐらせんその日を告げよ時を知らせよ

いねがたし君來て呼ぶや眠るまに病癒えんと横はれども

風寒し我は遙かに抱かれて心ときめく身ぞと思へど

山河のへだてすらなほ除かんと君は心をくばりたまへる

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

君思ふままわが思ふままなりと誓ひし身をば
病みてそこなふ

病にて死にうべき身の事無さに熱き涙のとど
まらぬかな

時迫り狂ほしかりし心をばきのふに持ちてけ
ふも君見ず

數ふるも憂き逢ふまでの十日をばたのてみ病
癒やさんとする

かにかくに待つてふものを我病みてむなしく
なさば生きがたからむ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

みづからの光に醉はず山かげに凍れる雪を我
になずらふ

病癒ゆあな心地よし解けそめし春の雪にも裏
切りてゆく

君に事起りてこの日逢ひがたしわれあきらめ
てうれしさを知る

逢はんことおぼつかなしと知りそめて心は空
も翔ける身となる

すみやかに來たれと言はずこの身にもとく逢
はましと言ひし君かな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

夢みたる道のべまでも行きて見む君は見ずと
も心なごまむ

絶望のもだえに堪へじあきらむと言へど小さ
きことと思へど

夢ながら悲しかりけりあはれまたこのかなし
さもゆめなりしかな

やごとなきみ憾負はば殘るものあるまじき身
も死なじとぞ思ふ

水色の雨の中にて火の燃ゆる夜明けの山に君
を思へる

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ひとときにこしよろこびとかなしみの前に涙のためらはずわく

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ソニヤ・コヴァレフスキィの自傳

――野上彌生子譯――

第三章　變化

マリヤ・ヴァシルゼエフナの不快な挿話（エピソード）を序幕として、色んな悶着が次ぎ〳〵に起つて來たものですからイヴァン・セルゲゼエヴィチは、これまでは打つちやつておいた育兒室に幾程か注意を向けるようになりました。

イヴァン・セルゲゼエヴィチは、子供達の日頃の行は、決して自分の想像してゐたような摸範的なものではなかつた事を見つけ出して意外に思ひました。

一例をあげて見ますと、或日二人の娘達が二人ぎりで外出いたしました。ところが迷ひ子になつて晩まで道が分りませんでした。その時娘達は毒のある苺を食べて、そのために明けの日は病氣になりました。この出來で先づその子供達の取締りの上に大いなる手拔りのあることが分りました。これが分ると直ぐと引き續いて色んな事が分つて來ました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

今まではアニウタは年にしては珍しく恰好だと思はれてゐました。ところが彼女は恐しくやんちやんである計りでなく、十二になる娘としては非常に無智でありました。彼女は自分自身の言葉を正しく書くことさへも出來ませんでした。

何よりも一番惡い事は、その佛蘭西人の家庭女教師が、子供達のゐるところでは口にせられないような見苦しい不行跡をしたのが分つた事でありました。

ある悲しい時が起りました。ターニャはそれを一般の家事向きの災難の一種として後々までもぼんやり覺えてをりました。育兒室では泣いたり騷いだり計りしてゐました。皆んなが喧嘩をして、罪のないものも、罪のある者と同樣に叱られてゐました。お父樣は怒つてゐるし、お母樣は涙に暮れてゐました。ニーニャは泣き叫びました。佛蘭西人の家庭女教師はもろ手を振りながら自分の物を荷作りしてゐました。ターニャとアニウタは身動きもいたしませんでした。と云ふのは、この二人は何もかも自分達のせゐにされて、皆んなから不平を鳴らされてゐたからでありました。ほんの一寸とした惡い事でも、一つばしの罪とせられてゐました。これと共に二人は結局どうなる事だろうかと呆れながら、そのごたごたや、をとなの人達の喧嘩を聞いたりするにもの珍らしい興味を感じてゐました。

イヴアン・セルゲエヴィチは半端な事が嫌でありますから、凡ての教育の方法をすつか

り改めて仕舞はうと決心いたしました。佛蘭西人の女教師は注意を與へられるし、ニャーニャは育兒室から退けられて亞麻の方の掛りにせられました。而して二人の新らたな人々が現はれて余りました。それは波蘭人の先生と英國人の女教師とであります。

その先生は僅かに値打ちのある人物で十分に自分の職務を了解してはゐましたが、子供等の教育上には、何等の感化をも及ぼしませんでした。それと違つて女教師の方はその家に全く新らしい分子を導き入れました。

彼女は露西亞で生れて、露西亞語もすら〲と話してゐましたが、代表的なアンダロ・サクソンの性質を留めてをりました ――即ち正直で辛抱强いことであります。此最後の辛抱强いと云ふ特質が此處の家族にはなかつたのでありますから、もし彼女がその周圍にそれを實行するとなると、大なる感化を及ぼすのであります。

先づ全力を注いだのは育兒室をすつかり改革して、仕舞ふことでありました。彼女は其處で摸範的な英國の少女としてその教へ子を成長させ度いと望んでをりました。

懶惰と不注意と而して專制主義とが百年來の習慣となつてゐる露西亞の貴族の家庭に、英國の制度を設くることの中々容易でないのは明らかでありました。

それにも拘はらず彼女の驚くべき粘靭性(テナシチー)のために、或程度まで立派にやり遂げました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

けれどもアニウタはもう癖のようになつて氣隨な振舞をしてゐたのでありますから旨く參りませんでした。二人は一二年の間絶えず喧嘩ばかりしてゐましたが、その內アニウタは十五になつたので、それつきりでその女教師に服從しなくもすむ事になりました。

アニウタがその手を放れたと云ふ外面のしるしは、彼女のペットを育兒室からエレナ・パウロヴナの次ぎの部室へ移したことでありました。その日からアニウタは自分はもう一つぱしをとなだと思ひました。それと共に女教師は、アニヴタの行狀にはも早や自分は關係はない、それに就いての一切の責任も捨てゝ仕舞つたのだと云ふ事を何かの機會のある毎に斷言してゐました。

女教師はもうターニャ計りを一心に氣をつけて、家中の人々から引き離してゐました。而して疫病でも庇ふように熱心にその姉さんの感化を受けさせまいとしてゐました。この排斥法は、その家が二つ三つの家族なら、ちつともお互ひに不便なく生活して行けるような設備になつてゐましたから都合よく參りました。二三の豫備室と幾間かの召使達の部屋を除くの外は、殆んど凡ての二階下が女教師とターニャに當てがはれてゐました。優雅な飾りつけをした客間のある應接室の一階は、エレナパウロヴナとアニウタのものでありました。フェディヤとその先生は一つの翼を持つてゐました。將軍の書齋は本家とは離れて

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

別の建前になつてゐる一つの塔の二階下を占めてをりました。斯う云ふ風にラゼエフスキィ家のまち／＼になつた群れは、各自にその領土を持つてゐて、お互ひに邪魔し合ふ必要はありまんでした。たゞ二度の食事と、晩餐と、夜のお茶の時だけは、凡ての仲間(サークル)が一緒になりました。

第四章　教育

ターニャには嚴重な規則正しい生活が始まりました。彼女は女教師と寢室を共にしてゐますので、女教師は着換えの指圖をして、七時にはもう起して朝の間に冷水浴をさせました。ターニャはこれが厭でありましたけれども、して仕舞つた後は大層氣持ちよく感じました。而して大低大元氣でゐられました。けれどもその愉快な氣分は直ぐとマルヴィナ、ジャコヴレエヴナから妨げられました。この人は肝臟病に罹つてゐて、朝は滅多に機嫌のいゝ事はなかつたのでありました。朝御飯がすむと日課は相變らず音樂で始まります。一時間半の間音階を辿つたり、練習をしたりするのは、どちらも大して面白くもありませんでした。アニウタが一緒にお稽古をする時には、ターニャは非常に面白く勉强が出來ました。注意深く聞き入つて、お姉さんが皆んな忘れた時でも、すつかり覺えてるような事が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

よくありました。それでも正しく一生懸命にはしてゐながらも、ターニャは自分の學科に少しも氣乘りがいたしませんでした。

十二時には晝御飯を食べます。而して一番おしまひの一と口が飲み下されるや否や、女敎師は窓のところへ行つてお天氣を調べます。寒暖計が氷點以下十度より下つてゐなくて、風のない時には、二人は一時間半ばかり雪のない庭の小路をあちこちと歩きます。けれども非道く寒くて風吹きの時には、マルヴィナ・ジャコレエヴナは自分だけお極りの散歩をして、ターニャは二階のある廣い部屋へやられて、其處で毬つきをして遊ばなければなりません。

ターニャは毬つきなぞはどうでもよかつたのでありますが、それでも悦んでその命令に從ひました。と云ふのは一時間半の間一人つきりになれるからでありました。その間は何の氣兼ねもなく空想に耽りました。暗記してゐる詩だの、又自分で作つたものだのを歌つたて見たりいたしました。彼女は非常に詩が好きで、自分は詩人にならうと思つてゐました。實際五つの時から彼女は詩を書いて見ました。けれどもこの事は女敎師が好まなかつたので、殘酷にその企てを嘲笑つて、全力を盡して止めさせて仕舞ひました。

ターニャが一人つきりで學科を勉强する事になつてゐる大廣間の隣りは圖書室でありま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

したから、大いなる誘惑でありました。此處に澤山な書物が机や、椅子や、寢椅子の上に散つてゐるかと見れば、其處には又有らゆる種類の外國の小說や露西亞の雜誌がありました。ターニャはこれ等の書物のどれにも手を觸れる事を嚴しく禁じられてゐました。と云ふのはマルヴィナ●ジャコヴレエヴナはターニャの讀書に就いては非常に八釜しくつて、自分ですつかり分つてゐる物でなければ讀ませなかつたからでありました。けれどもその女教師は讀書はのろい方で、それにその子供が見度いと思ふような書物を讀む暇が擇山となかつたものでありますから、ターニャの心智的の飢餓がもう慢性になつてをりました。斯んな時にどうして禁斷の果實を拒ませる事が出來ませう。

彼女は一寸と氣咎めをいたします。それでも一つの書物を手に取つて其處此處と拾ひ讀みをして、又廣間に走せ戻つて來て暫くの間遊びます。けれども終に誘惑が非常に強くなつて、だん〳〵或書物から又他の書物と讀むようになりました。折々部屋に馳け込んでは讀み耽つてをりました。けれども時としては讀む事に夢中になつて時間も何も忘れてゐると、その現場を女教師に見つかりました。この事はターニャの知つてゐるうちで一番惡い罰が出て來るのであります。彼女はお父樣のところへやられて、自分からその罪をお父樣へ白狀しなければなりませんでした。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

イヴァン●セルゲセエヴィチは決して子供達に厳しくはないのでありますが、滅多に逢ふ事がなかつたものですから、その間に親しみと云ふものが少しもありませんでした。たゞ子供達が病氣の時には例外でありました。その時には彼は全く別人のようになつてゐました――子供達を亡くせねばよいがと云ふ怖れが、凡ての他の感情を打ち從へて仕舞ふのでありました。彼の聲や有らゆる動作が非常に親切にもの優しくなりました。彼は子供達をかき抱きます。而して誰よりも上手に遊んでやります。こんな時には子供達はお父様を心から崇めて、その親切の思ひ出でを大事に胸に疊んで置きます。けれども子供等が全快して仕舞ふや否や、お父様は再び自分はもとの通りに厳格にならなければならぬのだと思ひました。而して滅多に抱いたりする事はありませんでした。

彼は孤獨を好んで、何人も立ち入るを許さぬ自己の世界に住んでをりました。エレナ●パウロヴナでさへノックをしないではその聖所へは這入りませんでした。而して子供達は招ばれないのに決して行くような事はなかつたのであります。

それ故『お父様のところへ入らして、あり体に申上げてお出でなさい。』と云ふ女教師の命令は、ターニヤに取つては最恐ろしい申渡しでありました。けれども叫んでも逆つても仕方がありませんでした。しつかりした手に攫まつて將軍の戸のところへ引きずつて行か

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

れて、その運命のまゝに任されました。其處にはお父樣の從者のイリャが、いま〳〵しい笑顏をして立つてゐます。彼女がそのまゝ勉强室へ引き返して來れば、違背の罪の上に圖々しく命令に從はぬと云ふ事が加はるのでありました。それかと云つてその召使から憐まれたり嘲けられたりしながら立つてゐるのは迚も堪えられません。それ故戸を叩いてお父樣から叱られる外に仕樣がないのであります。彼女はそつと叩きました。

『お孃さま、もちつと强くお叩きなさいまし。』とおせッかいなイリャが申します。イリャはその場の光景を何處までも面白がつてゐるやうであります。

彼女は再び叩きます。

『誰だい、お這入り』と聲が答へます。

ターニャは這入りました。でも戸の內側で立ち留まつて仕舞ひました。お父樣は戸の方を後にして書き物机に座つてをりました。

『どうした、誰だい。』と彼はもどかしそうに呼びます。

『わたくし、マルヴィナ●ジャコヴゼニヴナから寄越されました。』とターエャは泣きじやくりをしながら答へます。

イヴァン●セルゲゼニヴィチには事の始末が分つて仕舞ひます。『また惡戯をしてたと見

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

えるね。』と彼はわざと荒々しく云はうして申します。『一体どうしたのだ。』するとターニヤは流るゝ涙のうちに口籠りながら懺悔をいたします。イヴアン●セルケゼエヴィチはよく耳に留めは致しません。彼の兒童教育の觀念は最初歩のものであります。彼は教育は婦人の仕事だと思つてゐるのでありますから、自分の罪の宣告を待ちながら其處に立つてゐるその小娘の錯雜した感情などは、少しも分らないのでありました。彼に取つては彼女はまだ矢張り五つの小さいターニヤなのであります。彼はこんな場合にはどうしたものか全く分らないのであります。ターニヤが命令を犯したからと云つて自分には大した關係のない事でありますが、それでも教育には嚴格と云ふことが必要だと堅く信じてゐます。彼は内心にはむしろこんな一寸とした事を女教師が自ら所決し得ないのが腹立しく思はれるのでありました。併しその事件を訴へられて見れば勿論父としての權威を示さなければなりません。それ故彼は非道く六ケ敷い顏つきをいたします。

『椀白ないたづらつ兒、わしはお前のような者は大嫌ひだ。』と彼は申します。それからは何んと云つていゝか分らないので、一寸と言葉をきります。『行つて隅に立つてお出で。』最後の命令はこれであります。と云ふのは凡ての賢明な兒童教育法の中から、いたづらつ兒は罰として部屋の隅つこに立つてゐなければならないと云ふ事だけが、たゞ一つ彼の記

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

憶に殘つてゐるからでありました。

十二の娘のターニャ、暫く前までは彼女の讀んでゐた小說中の女主人公と共に非常に感興の高い心理的の光景を辿つてゐたその人が、いたづら兒のように隅つこに行つて立たなければなりません。

イヴァン●セルゲゼエヴィチは又その仕事にかゝります。部室の中は森と靜まり返つてゐます。ターニャは身動きもせず立つてゐますが、その間ぢゆう色んな縺れ合つた感情の流れが注ぎ込んで參ります。彼女は此罰は如何にも無益な馬鹿げた事だと云ふ事がよく分ります。でも恥辱だと思ふので、淚も出さなければ不平も云はず、默つて云ひなりにしてはゐましたが、不法な苦しみを受けてゐる憤りと、それに對する自分の不甲斐なさに、息もつまりそうな氣がいたしました。それに從者が彼女の罰せられてるのを見ようとして何かにかこつけて部室に這入つて來たので、彼女は一層苦痛を感じました。

お父樣はすつかり忘れてゐたようでありますが、それでも仕舞には彼女の事を思ひ出しました。而して『さあもう行つてよろしい、二度とするんぢやないよ。』と云ひながら送り出してやります。その子供の心の中が見えたら彼は恐らく怖ろしかつたでありませう。ターニャは年よりずつとませた悲哀と、烈しい屈辱の思ひを抱いてお父樣の部室を出て參り

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ます。彼女の生涯での一番闇黒時代に、丁度これと同じような思ひをした事がありましたが、それとこれとでたつた二度しか覺えのない位ゐなものでありました。

彼女は勉强室に歸ると、默つておとなしくしてゐます。女教師は自分の教育法の結果に滿足してゐます。その後の五六日はターニャは非常に物靜かに素直で、何一つ過ちをも見出すことは出來ませんでした。けれどもマルヴィナ●ジャコヴレコヴナにもし此事のためにその小娘の心に殘つた印象が分つたなら悦びはしないでありませう。

自分は家族の人々から可愛がられてゐなかつたと云ふ自信は、暗い糸のように幼年時代からターニャの有らゆる追懷の中に通じてをりました。その思ひは召使達か不用意のうちに發する批評から養はれて、女教師と共に暮らしたその淋しい生活の間にだん／＼擴がつて參りました。

マルヴィナ●ジャコヴレエヴナの運命は、どれも非道く面白くないものでありました。世の中には賴りのない一人者だし、もう若くもないし、初めから親しみのなかつた露西亞には知る人もなく、たゞ英國風の周圍を懷しんでゐたのでありますから、センチメンタルな感情丈けはそうでもありませんでしたが、頑固とか根氣强とかその他凡ての執着をターニャの上に集めて仕舞つたのでありました。エレナ●パウロヴナとその女教師とは餘りに

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

反對な氣質でありましたから、二人の間は迚も同情し合ふことは出來ませんでした。

ターニャのお母樣はその性格なり外貌なりが決して年寄らないと云ふたような婦人の一人でありました。彼女は獨逸の貴族の家柄でありましたが、家族は永年露西亞に住んでをりました。そのお祖父樣は有名な科學者で、お父樣は士官學校の校長をしてゐました。そんな地位として、彼は聖ペテルスブルグの上流社會では、軍人側にも亦科學者側にもどちらにも接近するようになつてゐましたから、その家には社交界の粹を集めてをりました。妻なる人は早くに亡くなつてゐましたが、獨身の姉妹たちが澤山あつて一緒にゐましたので、家事を取締つて參りました。

こんな譯で若い娘としてのエレナ●パウロヴナは、生活の實際的の方面には觸れる事がありませんでした。彼女はその頃の大部分の露西亞の娘よりはずつと以上の教育を受けましたので、ピアノも上手に彈けるし、立派に歌へもするし、數ヶ國の外國語も話しました。而して佛蘭西文學と獨逸文學には可なりの智識を持つてゐました。その上彼女は藝術的の趣味を持つてゐました。と云つてその才能はどれも自分に大なる犠牲を要するほど秀でゝもゐなかつたし、周圍の趣味や習慣と衝突することもありませんでした。却つて自分のためと云ふよりは他人のためにその才能を研いたのでありました。

お父様の家のお客様は大低もう年配な、眞面目な人達で、皆んなその美しい恰好な娘を可愛がつて彼女と氣輕な話をするのを好みました。その人々はよく彼女の面倒を見てやるつて、ほんの子供として取り扱つてゐました。ずつと年上になるその良人も、矢張り彼女をこの通りにしてゐたのであります。

イヴァン●セルゲゼエヴィチがエレナ●パウロヴナと結婚した時には鰥夫でありましたが、先妻には一人も子供がありませんでした。もしエレナが何處か獨逸の家に嫁いだのなら、彼女はその家の立派な主婦となれたでありませう。けれどもその露西亞の家庭では家事向きの効果をあげるのは寧ろ六ケ敷いことでありました。此家の制度は幾代となくラゼフスキィ家にあつたものだと云はれてゐました。召使達は年とつた農奴で、ずつと前から凡ての力と權能を我物顔にしてゐたのでありました。それに彼等の新らたな奥様は、まだほんの子供で、優しい、云ひなりになつてゐるような氣質でありましたから、何處までも我を通うして、何かその家事を改革して行こうと云ふような事は迚も出來ませんでした。一二度改めかけた事があつたのでしたが、その命令は不承無精に行はれて、わざと不都合なように仕向けて仕舞ふものですから、つまりはエレナ●パウロヴナが自分の方の拙い事を認めなければならなくなるのでありました。勿論こんな失敗がある度に、召使達の我儘は増し

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

て行きました。

彼女は何となく女敎師を恐がつてをりました。その女敎師は自分の方面の事では、若い夫人を稍手痛く取扱つて、子供部屋では、自分が主權者だと思つてゐました。そ故エレナは滅多に勉强室に行く事もなく、その子供達の敎育には決して干涉いたしませんでした。

ターニャはと云へば、彼女はお母樣を崇拜して、自分の知つてゐる凡ての婦人の中で一番美しい人で、一番可愛しいと思つてゐました。それでも自分は少し虐待せられてゐると云ふ思ひを禁ずることは出來ませんでした。――お母樣は何故ターニャを姉さんや弟ほど可愛がらないのでせう。

夜であります。ターニャは勉强室に座つてゐます。彼女はもう明日の日課はすましたのでありますが、女敎師は彼女があちらへ行つて、他の人々と一緒になるのが氣に入らないのでわざと引き留めてゐるのであります。應接室からは音樂が聞えます。エレナ・パウロヴナは夜はよくピヤノを彈いてゐました。彼女は澤山な音樂をそらんじてゐましたから、何時間も興に任せてあれこれと彈く事が出來ました。ターニャはお母樣の演奏を聽くのが大層樂しみでありました。とうと彼女はお許しが出て逃げ出すと、二階へ駈け上ります。彼女が應接室へ這入るとエレナ・パウロヴナ彈くのをよしました。而して兩方から絡まつ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

てゐるアニウタやフェディヤと共に椅子に座ります。彼等はおしやべりをしたり笑つたりして、ターニャには全く取り合ひませんでした。彼女はませて貰ひ度いと思つて暫く一緒になつてゐますが、とても駄目でありました。彼女は興覺めた心持ちになります。『皆んなは私のゐない方がずつと面白いんだ。』と云ふ事は彼女の苦い思ひでありました。それで、そうし度いとは思ひながらも、お母様の美しい手に接吻することもなく、離れてた隅つこに引つ込んで、皆んなお茶に招ばれるまでむつちりしてゐます。それがすむとターニャは行つて臥せらなければなりません。——未完——

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

梅のにほひ

――小林哥津――

人名

三五郎
おきの
霞升
新吉
おたつ

舞臺は上手をやゝ廣く、下手の方をせまい二間にしきつてある。下手の正面には往來に向つた古びた格子戸の裏側が見えてゐる。すべて上りはなのこゝろ。上手へ行く中ぢきりには二枚の障子が立つてゐる。しかしこゝは常に出入をするので障子はあいたまゝになつてゐる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

上手の方の正面は、下手よりのところに半窓が大きくあいてゐる。そこの障子を開けるとこの家のある新道の通りや、前に立ちならんだ家などが見える。窓の下には小さな植木臺にのつて白梅が咲いてゐる。その窓からづつ上手へかけて、佛壇、簞笥の入つてゐる戸棚、それから勝手へ行く出入口などがある。これも古びた長火鉢は、佛壇の下あたりに置いてある。勝手へ行く口の柱には八角時計がかけてある。——すべて、下町うらにある。おたつの家の模様。

荷造の出來た柳行李や、鞄などが隅においてある。

時は二月に入つたある日の午後。ぱあつとまとまりもなく陽氣にさわいだ日ざしが半窓にうつつてゐる。何の音も、響もしない靜かな午後の三時頃。

火鉢の前には三五郎（舊劇の女形をする男、二十五、ごてらをきてゐる）が、巻紙へ何か手紙を書いてゐたのをそばに置いてあつた封じ紙へ入れてある。何の歌だか鼻歌をうたつてゐるやうだけれど、それが何の歌なのかわからない。たゞ細い、長いもの悲しい節だけがきこえてゐる。

おさの。（おたつの娘、十八九、ちいさい、ちみな銀杏返しがこわれかゝつてゐる。）は半窓から入る光線を横にとつて大きな裁板を控へてせつせと縫ひものの針をうごかしてゐる。裁板の向

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ふには誰れか座つてゐたあとゝ見えて、主のない座蒲團がをいてある。——

おきの。（しみじみとした調子で）ね、從兄さん、その歌は何でしたつけね。

三五郎。（ふつと顔を上げておきのを見ながら）これかい、一中の夕霞なのさ。きいちやん、お前さんはおぼいてゐるかい。よく家の死んだ親爺がこれが十八番で、ちつぽけなきいちやんまでつかまいちやあ、敎へたつけね。

おきの。えゝ、あの「あはせて見てもあいかねる、口舌した夜の髮ぢやとて」ていふのでせう。さう、あれは一中の夕霞でしたつけね。………何だか今兄さんの歌つてゐた時は文句が解らないで、只節だけきこえるんでせう。こうめいりそうに哀れぽい節まはしで、何だか悲しくなるわねえ。

三五郎。そんなに哀れつぽい聲を出したかい。

おきの。えゝ、そりやあ。——ね兄さん私もう歌なんか歌はなくつて久しいものよ。時々何の歌だか文句をふつと思ひ出すことがあつてもどんな節だつたか、ちつとも思ひ出せないことがあるの。

三五郎。そうだらうともね。歌だつて唄はなけりやあ忘れちまはあね。

三五郎書き上つた手紙をおきの、前にほゝる。

おきの。(その手紙に目をやつて) これ出すの。

三五郎。あゝ。後でついでに入れておくれ。

おきの。ぢややつぱり兄さん、おてるさんに逢はないで立つちまふの。

三五郎。あゝ、いくら行つたつて、向ふで逢ふ氣がないんだもの、無駄だあね。

おきの。ぢや、この間行つたきり、もう行つて見ないの。

三五郎。あゝ。――ひよつともしたらおてるの奴、わざつともう逢はない算段してゐるのかもしれない。

おきの。まあ、そりやあ兄さんのひがみつてものよ。女てものはね一遍した苦勞の味を忘れるやうなことはないわ。

三五郎。――きいちやんはそうだらうけれど、あいつは薄情もんだからね。――俺が旅へ行くつてことを今更知らないんでもなからうに。やつぱし情なしなんさ。

おきの。女は因果だわね。おてる んだつて、どんなに色々なことにからまれて儘にならないことがあるかしれやしないわ。たとへば兄さんが逢いに行つた日だつて、のつぴきならないことがあつて逢へなかつたのかもしれやしないわ。それを一圖に、自分は一遍

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

・か逢ひにも行きもしないでいて、あいつは薄情の、情なしのつて勝手を云はれてさ。

――ほんとに割にあはないわ。

三五郎。まあきいちやんは薄情だとは云やしないからそうむきになんなさんな。――だけど自分に逢ひに來た男に、いくらのつぴきならないつて逢いもしないで、平氣でゐられるだけ情が薄いんだと思ふね。――俺だつたら、思ひ死に死んぢまはあ。

おきの。（微笑）とても男には女の心持は解らないつて云ふの。女はね、そんな我儘な手前勝手は出來ないわ。三方四方へ氣をかねて何だつてやつてるわ。

三五郎。（つりこまれたやうな笑ひ）、きいちやんはえらい！――

おきの。まあ、人が眞面目になつてゐるのに、いゝわ。

三五郎。そんなにおてるの肩をもつてるひまにちよつと出して來て呉んないか。

おきの。それは、出してこいといふのなら出してくるわ。だけど、ね兄さん、おてるさんは兄さんの云ふやうな薄情ぢやないと思ふわ。きつと今日は家へ來るだらうと思ふの。

三五郎。（おきのの云ふ事はきいてゐない。何か考へてゐるやうな樣子）…………だけど、逢ひもしないで、手紙なんて出すだけ、思ひきりが惡いこうだ……出すだけ野暮なのだ。

おきの。何云つてんの。ね兄さん、おてるさんは兄さんが立つのは家からだつて知つてるの。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

三五郎。（ふつとおきの云ふ事に氣付いて）うゝん、知らないだらう。何是。

おきの。そいぢやあ、こうしませう。私手紙を出す代りに、ちよつくら電話をかけて見るわ。女の聲ですもの大丈夫だと思ふわ。

三五郎。（無言）

おきの。ね、いゝでせう。そうしませうよ。

三五郎。無駄だ、來るもんか。

おきの。まあ見てゐらしやい。

三五郎。そんなにきいちやん、お前さん一人でうけあつたつて、もし來なかつたらどうするい。

おきの。そうね。――そうしたら、女は薄情とでも、情なしとでも云つてい、ゝわ。だけど、おてるさんきつと來るわ。

三五郎。（淋しく笑ふ）は、は、そうかつてきいちやんに云つたところではじまらないね。

二人の會話の中に格子戸をあけて、おたつが入つて來る。

おたつ。（四十七八。ふけた女）――家へ入つてくると、梅が匂ふね……　……

おきの。あらお母さん、お歸んなさい。

おたつ。――何を云つたつてしようがないの。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

三五郎。おかへりなさい。――何ね、今きいちやんに、女は情なしだつて云つて、すつかり叱られちやつたところなんさ。
おたつ。おやまあ。それはさぞ恐かつたらうね。で三ちやんはどう云つたつてしようがないから只だおなかの中でそう思つてゐるつていふの。
三五郎。
おきの。（笑ふ）
おたつ。
おきの。だつてお母さんどう思つて。今私がおてるさんに電話をかけて、今日兄さんが立つて云たらおてるさんはきつと家へ來ると思はないこと。
おたつ。さあ、來ませうよ。
おきの。そらご覽んなさい。――ちやちよつと、行つてくるわ。
おきの縫ひ物を片づけて立ち上る。
おたつ。おきのも大した苦勞人になつたもんさね。――（三五郎を見かへつてほゝ笑む）
三五郎。ちや一つこゝはきいちやんの顏を立てゝそう願ひますかな。
おきの。だつて口惜しいですもの。兄さんは何かつていふと、女をあんまり安く見てるん

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

だもの。ほんとに性根だまのある女はこんなもんですつて見せてやりたいわ。

おたつ。おや／＼大した勢ひだね。ぢや、ついでのことに、晩に皆なに出すちよつとしたものを見つくろつて來てお呉れ。

おきの。はい。

おきのは、上りまぐちから下駄をもつて行つて、臺所の方から出て行く。

おたつ。しようのない娘(こ)だつたらありあしいな。ほんとに鼻ばりが強よいつたてない。

三五郎。――ね叔母さん、こんど東京(こつち)へ歸つて來る時には、きいちやんもどんなになつてゐるでせうね。きつともういゝ女房(かみ)さんになつてるだらうね。

おたつ。さあね。――何時になつたら、あの娘の身もきまるんだか。あゝやつてなりにもふりにもかまわないで、仕事をしてかせいでゐることを考へると、氣の毒の樣な氣がするね。

三五郎。でも叔母さんはいゝ娘さんをもつてるつて、よく家の母親(おふくろ)が云つてたつけが――。

おたつ。あの子だつてそういつまでは子供でもゐまいものね。こんな不幸(ふしあわせ)な家の娘に生れたのが悲しいと思ふことがあるだらうよ。それを考へると、私や可愛想でね。――

三五郎。（氣を代へたやうに）何叔母さん、心配することはありやしませんよ。世間にあんなに

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

しつかりしてゐる娘さんは少ふござんすぜ。——きいちやんは悧巧者だもの、叔母さんに苦勢をかけることなんかありやしない。

おたつ。さあね。——(ふつとこれも氣を代へて)それよりはお前こんだは東京へ何日(いつ)歸つてくるい。

三五郎。何時つてあてもありやしない。——まあ歸つては來るつもりですけれど、どうなるか。——

おたつ。心細い事お云ひでないよ。お前さんなんかこれからぢやないか。まあせつせと稼いでね一日も早く歸つておいで。

三五郎。旅で病んだら、どんなに叔母さん心細からう。——いろんなことを考へると、いつそ活動役者になつてもこつちに居やうかと思ふよ。

おたつ。馬鹿云つてら。——唐、天竺へでもゆくんぢやあるまいし、そんな氣の弱いことでなるもんかね。

三玉郎。でもね。これが、ちやん〳〵東京の興行を打上げちや、その間旅をまわるつていふのならいざ知らず、あゝいふ様な理由(わけ)で、森本の座はいけなくなるし、そんなこんなで旅へ出るやうになつたんだもの、——考へて見ると又、何時の日東京へ歸れるんだか、そう思ふと心細くもなつちまふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

おたつ。そいだつてお前、人間浮沈みのある世の中ぢやないか。座頭だつて、何時までそんな旅をまわつてゐるつて、何時どんな拍子で、東京の舞臺を踏むやうになるかしれないぢやないか。そんな時機が近いうちにあるんだと思つてまあ少し辛捧するのさ。

三五郎。（無言）

とぎれたやうな沈默。――

「今日が立ちだつてれ」と窓の外でふいに聲をかけた人がある。

おたつは「どなた」と云ひながら、そつちへ行く。三五郎もつゞく。障子をあけると、霞升（元作者をしてゐた男、年寄）がたつてゐる。

おたつ。おや霞升さん。――

霞升。（家の中に半身を見せて窓の外に立つてゐる。）今日立つてね。

三五郎。こんちは、――まあお入りなさいまし。立話は大變です。

霞升。何、今湯の歸りでね。――何時に今夜立つんですい。

三五郎。今夜、九時三十五分なんですよ。――まあお上んなさい。

霞升。そうかい。ちよいと立つ前に逢いたいと思つてね。どうだいちよいと、家へも、お別れに來ちやあ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

三五郎。有難うございます。お伺ひしなけりあならないんですけど、御存じの通り、何だかんだつて、用があつてね。今日は出かけにでもちよいと聲をおかけ申そうかと思つてゐたんですよ。

霞升。そうかい。立つて云ふ話はとうにきいてだけど、今日ぢやあるまいと思つてゐたんだよ。今しがたおきのさんにそこで逢つて今夜たつて話をきいたんだけど。――ね、ちよいと、都合して一緒に來てお呉れ。

三五郎。さよですね。――

おたつ。お前、ちよいと伺つておいでよ。御新さんにもお目にかゝつてね…………。

霞升。一緒でなくつたつていゝや、後からだつて。

三五郎。ぢや、ちよつとお邪魔しませうか。

霞升。ぢやあ、一緒に行くかい。

三五郎。――ぢや今着物をきますからお後からすぐ。

霞升。そいぢやまつてゐるよ。おたつさん、さよなら。

おたつ。ごめん下さいまし。お茶も上げませんで。

霞升退場。おたつは無言のまゝ簞笥の前へ行く。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

三五郎。いゝや霞升さんとこだから羽織だけ、着ていけば。

おたつ。だつてお前、お暇乞ひに行くのにあんまりだね。もうどうでじき着ないおやならないんだものついでに着てお了ひよ。

三五郎。さうかい。

三五郎着物をきる。――紋のついたちりめんの羽織をきる。

おたつ。ぢや、もう新公も來るだらうから、なるたけ早くね。

三五郎。あゝ、ぢや、ちよいと行つて參ります。

おたつは上り口に、三五郎の下駄をそろへてやる。三五郎は格子を開けて出る。――使いからおきのが歸へつてくる。

おきの。(格子の外に立つてゐて)あら兄さんお出かけ。

三五郎。あゝちよいと、霞升さんとこまで。

おきの。霞升さん今私あつてよ。そいから、ねおてるさんねお氣の毒ですと――(聲を落す)

三五郎。來られないつて。(失望らしく)

おきの。あらがつかりしてゐるわ。ほんとを云へば、來るの、今ちよいと、百花園へ行く誰れかと約束があるから、そこから、うまく、はづして、來ますつて。――くるのは、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

まあ夕方だわね。

三五郎。そうありがとう。ぢやそれまでに歸へつてこよう。

おきの。行つていらしやい。――

三五郎は云つて了ふ。

おきのは家へ入つてくる。

おきの。只今――

おたつ。あいよ、御苦勞樣。何かあつたかい。

おきの。いつも同じ樣なものね。だけどまあ見つくろつて來たことはきたわ。

おたつ。そうかい。今、四時と、半にでもなつたら、その方へかゝりませうよ。

おきの。えゝもう仕事も片附けて了ひませうね。

おたつ。ああ、そうおし。

おきのは縫ひかけのものを戸棚へしまつたり、裁板をすみに立てかけたりする。

おきの。ね、お母さん。兄さんは隨分旅に出るのを淋しがつてるわねえ。

おたつ。そんなやうだね。

おきの。だつて又そのうちにや、東京で花を咲かせる時だつてあるわ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

おたつ。そりあ、あるだらうさね。

おきの。――だつて兄さんはもう歸れないところへでも行くやうだわ。さつきだつて、私一人で仕事をしてゐりや、何だか、歌を、哀ればい聲出して歌つたりしてゐるんですもの。私だつてつりこまれて、何だか今夜兄さんを田舍へなんか立たせたくなくなちまつたわ。

おたつ。(無言)

おきの。だけどねお母さん。――ね、お母さん無言(だまつ)てるんですもの、厭だわ。

おたつ。あいよ。

おきの。たけどね、私あの森本のね、あんなに人氣のあつた座がこんな不意にいけなくなるなんて噓みたいだわ。――私ね、兄さんが今夜立つて行つて了つても、何だかぢき、又、あしたの晩はかへつてくるやうな氣がするの。ほんとにそうだといゝわねえ。

おたつ。さうさね。――

おきの。そいからねおてるさんに兄さんは旅へ行くと知らせなかつたのよ。

おたつ。そりあ、ほんとなのかい。

おきの。ほんとなのよ。私兄さんはわざつと、『知らせないなんて云ふのかと思つたら、先

刻電話かけた時ね。おてるさんはじめて知つたんですつて。
おたつ。そうかい。三ちやんは今おてるさんをどう思つてるんだろうね。
おきの。ほんとね、――私、ほらまだ叔父さんの生きてる時分――おてるさんがほらあすこの家にゐた時分ね、あの時のことを考へると、何だか夢みたいだわ。
おたつ。あの時分は、あの家もにゝやかだつたね。――
おきの。えゝ、そりあ、面白そうだつたわ。それでまあ二年とたゝないうちに、叔父さんはあんなわけになるし、叔母さんも死ぬ、そいからおてるさんはあんな稼業をするやうになる。――と思つてゐるうちに兄さんは、今夜のやうに旅に出るやうになる――不思議なやうだわね。
おたつ。全くおかしいやうに、目に見えてあすこばかりは變つたね。――あの時分だつて、あんな華美な暮しをしてゐたつて、隨分苦しかつたんだけどまあ、叔父さんの死ぬまでは、何とも云ふものがなかつたのに、――やつぱりどうも家中の頭がうごくと、いけないもんさね。

（間）

おきの。――あゝもう昏くなるわね。

おきのはそこいらをはき出したりする。そして秋からたすきを出してかけて、勝手の方へ行く。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

格子戸があく、旅鞄をもつた新吉が立つてゐる。

おたつが立つて行く。

新吉。(三十前後、男衆、どうけた風のある男) 今日は、どうもおそくなりまして相すみません。

おたつ。おそくなつたもないもんだね、──まちくたびれて、親方は立つちやつたよ。

新吉。えつ、立つちやつた。──ほんとですか。

おたつ。あゝ、九時三十五分がくり上つて、三時二十分になつたのさ。

新吉。ほんとですかい。──嘘、又かつぐんでせう。

おたつ。(輕く笑ふ) うそぢやないよ。まあ、そんなところにつつたつてゐないで、お上りな。

新吉。へーエ、三時二十分に。──

おたつ。(笑ふ)

おきの臺所から出て來る。

おきの。新さん、人がいゝね、嘘よ。やつぱり九時三十五分なのよ。

新吉。そらごらんなさい。どうもそんな筈はないと思つてました。

おたつ。──冗談なんだよ。

新吉。私だつて方々へ顔も出さないちやならないし、こいで相當に用もありますんでね。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

――（上つてくる）おそくなつちまいました。

おたつ。おかみさんは。

新吉。汽車に乘る前にはまゐります。――ああほんとにおどろかされた。ほんとに親方はどつかへお出でなんですか。

おきの。霞升さんのとこよ。――ぢき歸へつてくるわ。

おたつ。新さん。お前さん、旅へ行つたら芝居するんだつて。

おきの。見たいわねえ。全く。

新吉。（笑いながら）え、するんですもの。まづ扇屋が出れば、娘小萩、鏡山なら中老尾の上てな奇麗どこでせうね。――

おきの。あら厭な新さんだこと。尾の上だつて。…………

おたつ。大變だね。――

おきの。ほんとに冗談はぬきにして、ほんとにするの。

新吉。嘘ぢやなくするんです。そいで役どこは、尾の上つて云ふやふなごく靜かなところなんですせ。是非おきのさんにお見せたいと思ひますよ。

おきの。馬鹿々々しい、こんな人の云ふ事聞てゐられないわ。――

おきの臺所の方へ行く。

窓の日ざしはこんな會話の中にだんだんに、薄れて了つた。

新吉は、三五郎のもつて行く旅鞄や、柳行李を順序よく上よりはなの方へはこんでおく。

おたつ。新さん、御苦勞様ですね。

新吉。いゝえどうしまして。

おきの。ねお母さん、後はこいで、皆なが揃つてから暖めればいゝの。

おたつ。そうかい。——皆なおそいぢやないか。

新吉。(かたづけて了つて)おきのさんランプは。

おきの。そうねもう昏くなつちまつたねえ。名優新さんをお使ひたて申してすみませんね。

——臺所の戸棚の前に出てゐますから。

新吉。ふゝ、名優はどうもおどろきましたね。

新吉、ランプをもつてきてつける。

明るい——と云つても影の多い。陰氣な赤い光りが部屋中をひろがる。新吉は窓の障子をあけて見る。外は深いくらいの色にいつかすつかりそまつてゐて、前の家の軒燈の光りがうすくさしてゐる。

新吉。親方もずいぶん、おそいぢやありませんか。——

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

おきの。そうね。それにおてるさんももう來る筈なのよ。

新吉。おてるさんも――あゝまだ見えなかつたんですね。

おたつ。どうしたんだらう。もうお前六時まわつてるよ。

（間）

新吉。私一走り見て來ませう。――霞升さんとこですね。

おたつ。そうね。そうしてもらいませうか。

おきの。――ほんとにどうしたといふのでせう。おてるさんも。…………

新吉は出て行く。

おきのは窓によりかゝたまゝ、外の方を見つめてゐる。

――待つてゐる三五郎も、おてるも中々かへつてこない。――

おたつは火鉢の前で思ひ出したやうに煙管に煙草をつめる。――二人とも何か考へつめてゐる。

窓の外を人の通る下駄音がとほりすぎる。

いきづまるやうな沈默が、長くつゞく。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

吾が生きかた（感想）——西崎花世——

豊さんの歸國を新橋におくる。（十三日夜八時）動き出した汽車の窓にうつぶしてゐる豊さんの顔はうす青く透くやうに見える。私は柱の蔭から涙を浮べて見送つてゐる。同じ年に同じこの二百里の汽車の道をこの都に移つて來た。あの女は今五年の業を了へて歸るのである。而して私はいつまでも此の東京を離れられさうもない。私の仕事には年といふものゝ區界が無い。とても私は私の仕事が私の死ぬと云ふ事であることを思ふ。

○

書物を讀む事が出來なければ人間を讀む事をして生きてゆきたい。何をも讀まずには一日でも生きられる私ではない。さう考へる私は人を讀むと云ふ事のどんぞこ（當時の慾望の充實）する處まで歩いていつて引き歸して來た。今私はこれからの私を書物をよむといふ事のどんぞ（現在の慾望の充實）まで歩かせてゆきたいと考へてゐる。

○

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

國の人々はしきりに私の結婚をすゝめて來る。私はその幾通の手紙を机の上に置いて、最後のことはりを述べる必要を感ずる。此のやうに熱心に私の身の上を案じて、私の嫁する事をすゝめてくれる人々の心に對して私は厚く禮を云ふ事が出來る。併し矢は既に絃を放れてゐる。樹はもう蕾の仕度を了へてゐる。私は私の眞の生きてゆき方が、そちらではなく、こちらの方に確立して來た事を覺える。私に私の結婚をすゝめる人は私がどう云ふ考でどう云ふ事業をどう云ふ態度でいとなんでゐるかと云ふ事を知らないからである。一日片時の間と雖、私の手からペンの離れらい事、私の心が私の拵へてゐるノートに對つて私の生命を集中し、沈潜し、透徹させて生きてゐる事の强さと、未來の創作(?)のために豫望する快樂の大きさと。

この私の奇狂に近い(併し私の眞劍の努めを)その人たちが知つたならばどうして私に對して私の結婚する事を是認する事が出來やう。私を求めてくれる其の或る人は、私を理解しやう、私に私の筆を持たさせやうと云ふ相であるが、それが私のための何等の都合にもなりはしない。もしも私が世間の女の人のやうに利口で如才がなくて生活力の多さを持てる性格ならば、それが出來ない相談でもあるまい。併し私は私の性質を感じてゐる。私は火の中にすぐ飛び込み、水の中にすぐ潛り込まうとする過激な、この生きてゆき方が、到

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

底他人との共同生活をいとなむ事の出來ない事をおぼえる。ましてあの德島のあの單調な土地であの複雜な家庭制度にこの心とこの身體とを變らせてゆく事は、それは私の損失だけは忍んでも大きい損失が却つて私の周圍の人々の長い間の後悔とならう。

私は私が嫁する暇のないと思ふ此の積極的な態度をあくまでもあの人達に徹底させてゆく事をしたい。あの人達は私の老後の困難(物質的)と女は家を成すべき約束(習慣的感情)とを以て私を動かさうとする。然し私は動いてはゆかない。私は私の結婚すると云ふ事について今の場合の何等の慾望はない(未來は私の考へる問題ではない。)

私は私の結婚したいと思ふ必要を内面的に感ずる時、いつでも、どう云ふ男とも同棲する事の出來る、私は私の絕對の自由を覺えることの出來るだけ益々たぢろがずにこの現在の問題を退ける事が出來る。私は私の心の旣に山の如き確立にこの位置を据えた事をおぼえる。私には嫁する事なき方向に私の生きてゆく道の光つて在る事を感ずる。私にはあくまでも私の意志の形作る本當の生活がある。而してこの生活は唯私一人の生活である。唯私一人の所有する唯我獨尊の世界である。何事も性を動かす力ではない。

○

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

私には同棲の相手がない。
いや、さうでないのだ、私には私に同棲する『男性の型』がある。男性と云ふ概念が私の心を抱き占めてゐる、それが私の夫である事を覺える。
私は結婚をしてゐない女では無い。
私は私の夫に愛されて生きてゐる。

〇

私の生きてゐる周圍に二百萬と云ふ人が生きてゐる。而してその二百萬人の二百萬と云ふ生きてゆき方が私の身のまはりに渦巻いてゐる。多くの人々の多様な生きてゆき方を此の心の靜に冴える眼に見たい。多くの人々の多くの生きてゆく姿を見て、それをそのまゝ私のノートの上に私の所有の言葉をもつて書いてゆく事をしたい。その書きうつす事が今の私の世界であつて、それを展げて私のものを創る日が私の忻求する私の未來の生活である。

〇

魯鈍なそして粗雜な、智識のない私の頭腦と、貧しい私の言葉とが悲しまれてならない。
私の眼の前に意味あるものが現れてもその意味を知らず、私の前に價値ある事が展げられ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ても、それを受け入れる言葉を持たぬ事がつらい。私はそのために落涙する。

○

其の場合その人でなければ云はれぬ言葉がある。其の場合その女でなければ爲ない行爲がある。其の場合その男でなければ見られぬ表情がある。私が私のノートに書き寫したいのはその場合の言葉、その場合の行爲、その場合の印象である。

その言葉を束ね、その行爲を集め、その表情を占めてそこにそれらの人々の生きてゆき方を味ひたい。私が切にいとなみたいと思ふところの人を讀むと云ふ事の主要點はこの事の外にはないやうである。

○

日々のノートを書く事の出來る限り私は私の道の私を光らせてゐる事を信ずる。ノートなしに私がどうして生きられやう。かりに私が私のノートに一日でも離れたら、私は私の死ぬ事であると考へられる。而してその時は私が汚い地獄に落ちる日であると信じられる。私はノートであつて私ではない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

寺田さんに逢つた。節ちやんをつれてゐる邦枝さんにも逢つた。いてふ返しに結つた私の顏が二人にも珍らしく思はれたらしい。私は私の女中をしてゐた事を、寺田さんに話をした、而してことぶき亭で暮した二十五日間の生活をほゞ理解せられる程度にはなしをした。寺田さんの事務所の女がこの頃病氣でやすんでゐるさうで私がしばらく行く事になつた。あの事務所は日比谷の圖書館に近い。私は私の何よりも本がよめると云ふ事が嬉しかつた。私の苦勞を天が慰めてくれるのであるらしい。私は本がよめる機會を與へられたのが嬉しくて涙ぐまれてゐる。

○

弟か來て五十錢の銀貨をあげませうといつて吳れていつた。私はそれで何を買はうかと思つて日比谷の方に出ていつた、そして何をも買はずにいそ〱して歌舞伎座の一幕見に入つて、冥途の飛脚、梅川忠兵衛の三幕を見た。羽左衛門の忠兵衛と、芝雀の梅川とを三階の大向から見下して、そこにひろけられる戀の場合を見惚れてゐた。何と云ふこともなく、ことぶき亭のおそめを思ひ出しゐた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

羽左衛門の忠兵衛を見るやうな伯話（講釈師）に戀ひしてゐる破爪的の處女の心持、それをおそめを眼の前にしてあくまでもありのまゝに書き寫して來た私の一八〇、一八一のノートの事を思ひ出したりした。

羽左衛門の忠兵衛は、芝雀の梅川よりもいい藝を見せてゐた。あの橋のたもとをゆきつ歸りつする羽織おとしのところは、たまらなく思はれた。いつたら金がつかひたからう。それは丁度私が今ここに來たやうな藝術に對する眞の心持である。私にはあの迷つてゐるリズムが面白い。殊に、戀愛に向つて直進する梅川も忠兵衛もその充實が死ぬ事であるのを見て、私も亦私の仕事の充實がまた私の死ぬ事である感慨に打たれてゐた。

死ぬといふまで人は歩かねばならないものであると考へられる。

○

私は眼を病んでゐる。必らずことぶき亭での廿五日間の勞働(らうどう)が私の眼を惡くしたのである。

○

私のノートは唯私一人の内面的な享樂でもありまた私一人のいとなみである。これは世間に對してと云ふ、相對的ないとなみではない。(未來の事は今の問題ではない)唯私一人の餘念なきたのしみである以上、私は私のノートの責任を唯私の爲にのみ感ずる。私は世間を私のノートのために愛すると共に、私のノートを或る關係を以てのみ世間につなぎつける事を欲してはゐない。

併しある適當の期に於て自然のなつかしい力によつて流露してゆく場合にはそれは私の耻ぢる事ではない。

多くの人々の生きてゆく事をまことに正しく味ふ事のために、人を讀み、且つ書籍をよみ、自然に心の膨れてゆく勢にまかして外にひろがる事は毫も私の耻ではない。

私は私がやがてこのノートの中に集めたものを取り出して、あの靜かな德島の土地にこの生命をおちつけて、おもむろに自分のものを作る事の出來ることを俟つてゐる。

私は私にその幸ひな心境の早晩ひらかれて來ることを豫望する來が出來る。

○

ことぶき亭で暮した二十五日間の生活が一編の小說として私の心の上に光つて在る事を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

感ずる。死を切りぬけて新しく生きたい爲めに、その必然の道程として私は私の一轉機の危險をあのことぶき亭の生活で救つた事は、たとへその形式が似てはゐても、それがよく下劣な人々によつて行はれる變裝云々の事ではない。

ことぶき亭で暮した二十五日の生活のあひだに、私は私のノートを三冊ばかり増す事をした。そのノートの中には、お人のいゝ旦那、意地の惡いお上さんの言葉、はすはな女中のおもと、美しいおそめの戀、蓄生のやうに虐待されても生きやう〳〵とするおきみと云ふこども、折々歸つて來て、繼しい母親と爭つて歸る、向嶋の藝妓の丁子、その姉の柳橋の藝妓の三平、威勢のいい仕事師の留さん、そのお上さんのおあさ、私を欲しがつた下足番の源さん等。

凡て七八人の人とを一束にして形作られてゐる講談の寄席と云ふ下町の生活が私のノートにことごとく文字となてゐる。此のノートを作ることの爲めに爲た私の苦心のなみ〳〵でなかつた事を思ふとき私は泣かれてくる。

やかて私の生命の十年十五年の後には、このことぶき亭の生活に對する正しい理解と眞の味を眞に得られる日が來るに相違ない、その日のおとづれるまで私は私の過去の生活をこのまゝ行李に貯蓄しておく事をしたい。此の貯蓄と云ふ事の多さほど私は私の富をおぼ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

える。

○

私は私の貯へてゐる過去の何萬日と云ふ生命の粒を一つ一つ味ふ事が出來る。私は私が何萬枚と云ふ葉を茂らせて空に延びてゆかうとする若木である心持を覺える。はじめから大木でありやう筈はない。私はのびてゆかうとする。何萬日と云ふ生命の粒をだん／＼に蓄積して、一粒々々私が大きく生びてゆかうとする。何萬枚と云ふ生命の葉が一葉々々私を茂らせてゆかうとする。

私は私の生命に對して、その一粒でも粗末にしなかつた。私は私の百枚十冊のノートの裏に私の生命の一くづまでも貯はへて來た。私は私が『吾が生き方』を生き得たものである事を惡びれず云ふ事が出來る。

○

單に婦人記者をする爲に私がこの東京に住んでゐるのではない。單に衣食住の安逸のために私がこゝに生きるのではない。私のこの生活は私の意志の直往邁進する爲にのみの生

活である。私の意志はひとへに私の眞の生き方にのみ向つて動いてゐる。私の眞の生きかたは私の周圍の人々の生きかたに對する觀察と、この觀察によつていゝ生き方を堀りあてやうとする創作とを私のノートに編み上げる事である。ノートの外に私の生存の理由は無い。

それで私は婦人記者と云ふ職業に束縛される事を許さない。それで私はこの生活をいつでも(必要に應じて)破壞する事が出來る。私は生活難を衣食住の事の爲のみに征服したくはない。あくまでも私の道は生活難を利用して、或る私の生きかたの爲めにのみ必要に應じてそれと勝負をしたい。

○

表現かうと思ふ欲望が私の生きてゆきかたとなる時が來るに相違ない。多分それは私の年が四十歲に近づかねば起るまじき欲望である。自然にその欲望が私の眞の生活におとづれるまで、私は決して何事をも書かぬと思ふ、やがてその時が曙の光の如く私の心に上つて來るであらう。もしその曙の訪れて來ぬならば、それこそ來ぬと云ふ事が私に對する思想である。今の私の生活は吸收と云ふ事の外には無い。人を讀むことゝ、本をよむことゝ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

この二つのいとなみの中間に私の欲し、私の得る事の二つが反覆されてゆくのである。

私は私の未來の結束されてゆく大體を豫想する事が出來る。

○

久し振に圖書館に入ることが出來て久しぶりに自分のよみたいと思ふ書籍の幾ページを開いてゆきながら、私は思はず眼の濡れてゆくのを覺えた。かうして本がよみたかつた。斯うしてよねんなく書物がよみたかつた。このなつかしい婦人室の白い壁に向つて、ガストーヴにこの身體を温められ、嵐のやうにもえる大きい明るい瓦斯の灯に照らされて、神に通ずる靜謐な心で、自分の好きな本をよむことのよろこび。

このよろこびをよろこびたかつた。この幸福に歸つて來たかつた、そして私は今歸つて來たのである。私は遂に書物の世界によびもどされて來たのである。この歸つて來た嬉しさが廿五日(ことぶき亭の生活)の郷愁の涙をぬぐつてくれる。

此のよんでゐる私の書籍は決して外國のものではない。また特に傑れたものである筈もない。たゞ通り一ぺんの本にすぎない。併し私は私の心がこの本の一圓の價値を五圓の價値として受け取る心である事を覺える。私の心の讀書の求め方が極度の熱にもえてゐる。

たとへこの書籍のあたひがどれ程貧しいものであつても、それが何等の悔ともならない程に私の心がこの書籍に集中してこの書の精髓に突き入らうとする。はりつめてゐるこの讀書の心がまへが私に本當に本をよませてくれる。

かはける鹿の口は一滴の水もあだにはこぼすまい。私の心がかはいてこゝにゐる。私の命が飢えてこの本に對つてゐる。貧しいものこそさひはひである。

四五人ばかりゐた若い女はことごとく歸つていつて、夜も更けてゆく七時すぎをたゞ私一人が赤い瓦斯の光りに惠まれてゐる。私は机の上に手を幷べてその上に額を伏せてそして涙ぐむのであつた、この涙は嬉しさの歌である。

○

ことぶき亭を引き上げて來てからも、私は更にまた私の生命の必要に應じて女中の生活を他の社會の生活の中に再び、もつと怜悧な風にいとなみたいと思ふ慾望を感ずる。街を通つてゐて電車の上から男女雇人口入所とある紺のれんを見る時は常に心の浪だつのを覺える。あの紺のれんのむかうに多くの人生がある。あの紺のれんのむかうに生きた男女が動いてゐる。あの家の閾を越してある幾人の人々を集めた一個の『生活の壺』が私の心を招

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

いてゐる。其『生活の壺』を心におもふ時、私はすぐにもその家に入つていつて頼みたい心地がする。私は私の職業のために、私の貴い先輩の家を巡禮するやうな事をする必要が無い。

今私は寺田さんの好意で今のこの生活に生きてゐる、これは私に自然に外から與へられた。私は私に加へられるものが、それが自然である限りはことごとくそれを收める。もしその力が絶える自然の姿が見えたなら、私は少しも迷ふ事なしに私の正しい生活を生きたい。女中生活が再び展けてきていた事を思ふ。女中の生活は私のノートの生活をもつとも完全に、もつとも眞實に生きさせてくれる生活である。

併しそれとても強いていとなむ必要はない私は私の生きてゆき方について自然に私におとづれてくれる運行(機械の意味にも取れる)と云ふものなしに靜地に波瀾を起したいとは思はない。私は私の思想と動作とをすべて日出日沒の天の狀態と晝夜黑白の地の狀態とに從はせたい、それが私の宗教であり、それが私の智慧である事を云ふことが出來る。

○

私はたしかに生きてゐる。

(大正三、一、二〇)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

電燈 ——與謝野晶子——

狹い書齋の電燈よ、
繩で縛られさかさまに
吊り下げられた電燈よ、
わたしと共に十二時を
越してますます目が冴える
不眠症なる電燈よ。

わたしの夜の太陽よ、
たつた一つの電燈よ、
わたしの暗い心から
吐息と共に込み上げる

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

思想の水を導いて
机にてらす電燈よ。

そなたの顔も青白い、
わたしの顔も青白い。
地下室に似る沈默に、
氣は張り詰めて居ながらも、
ちらと戰く電燈よ、
わたしも稀に身をゆする。

夜は冷く更けて行く。
何とも知らぬ不安さよ、
近づく朝を怖れるか、
才の終りを豫知するか。
女ごゝろと電燈と

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

じつと淋しく聞き入れば、
死をば隱した片隅の
陰氣な蔭のくらがりに、
柱時計の意地わるが
人の仕事と命とに
差引つけてこつこつと
算盤珠を彈く音。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

別後
—齋賀琴—

その昔君をしらぬ日かくまでに苦しきことも
おぼえざりしを

ものすべて我に背くと知りしよりなほ一念の
昴じゆきける

かくまでに忘れがたきぞ運命なれ戀ひ死ぬべ
きぞわが運命なれ

我をしておとろへしむることなかれ再び君に
まみえむ日まで

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

かなしくもなぐさめられぬ心かな君がみそばをはなれ來てより

人生の第一義をばかへりみずわれにならへと親は敎ふる

別れては君が心の悲しみにいのちをつなぐ薄命のわれ

もの云はずたゞをとなしく別れ來てさてわが心なぐさまぬかな

あはれあはれやるすべもなく疲れたるわがこの心いかになるらむ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

つかれはてし心になほもいといたく君が事のみ思ひつゞくる

さびしからず君一人を思ふ時うしほのごとく高鳴るこゝろ

命をば君に與へむ願はくばみ心のまゝあつかひたまへ

このなげきこのいきどほりすべてみな君がこころにかなへるごとし

ほろ〳〵と鳳仙花散るあき風によみがへるべき命なるかも

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

あるかなき風にゆらめきかなしめる落葉松の
秋の姿よ

何事にもうなづきたまふおほどかさ時にかな
しく思ひ案じぬ

けふうれしこの感激のきはみにぞ心しみじみ
泣くことを得ぬ

一すぢの君につながる執念をたゝば命の生き
も得ざらむ

百とせも千ごせも君を忘れじとやるせなきま
ゝ叫び出でける

十月のひなたにひとりしみ〴〵と心寂しくぬひものをする

ものぬへばややにまぎるゝこの心あざわらふごとくこほろぎのなく

あか〳〵と秋の夕陽の照り映えて小さき虫など窓近く飛ぶ

騒亂のその瞬間にたへがたくはげしく君をこひしたふかな

君思へば何のほこりぞたかぶりぞみ手にすがりて泣かまほしかり

思ひなやみ乱れはてたる心にもあざやかにこそ君をゆめむれ

かかる夜はかの海岸の松原のくらき木かげに泣きたまふらむ

生涯の禍福を君にゆだねたる今わがこころよみがへりぬれ

かぎりなく君を思ふと云ふことになぐさめらるゝ心なるらむ

命かけて君を戀ふると歌ひしはさびしき事のまぎれなりけむ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

あやまちもいつはりもみな寂しさのものゝま
ぎれと許させたまへ
さだめなくものゝきはみにあこがれつ空しく
もえてけぬるいのちか

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

戯曲 イワノフ（四幕物）――チエホフ作――

第四幕

第一齣

レベデフ家の一の客間。其正面にアーチが廣間から仕切つてゐる、左と、右とが戸。古い赤銅の置物や、家族の寫眞、總てあたりは祭日の裝飾。ピヤノと其上に、ヴアキオリンがある、其側に又セロが立て掛けて在る、さうして夜會服を着てゐる客達が、皆此幕中、廣間からぐる／＼と拔けては通つてゐる。

リヲフ。（登場。時計を見る。）四時過ぎだ、さうするともう今祝福（「譯者註」結婚の前に親が娘を祝ひ且つ幸福を祈ること）が初まるだらう…………祝福が濟めば、あとは直ぐにもう聖堂へ式に出掛けるのだらう。ふん、何しろお目出度い譯さ、徳義と、正義の勝利だからなあ！、あゝ、サラから金を取ることが出來ん爲に彼女を棺に納めて了ふまで、那麽(あんな)に虐待してからに、さうして今恁う

他のを探したのだ。未だ金を取つて了はん中は、奴、よく假面を被つてゐるさ、だが今に見ろ、さあ金をもう取つたとなりや、此の女も矢張あの可哀さうなサラの置かれてある所に一所に棄てられるには極つてゐる、いや、古い奥の手さ………（間。）奴、今はもう幸福で、全く第七重の天にでも昇つた氣持でゐるだらう、さうして一生、年を取るまでも、安樂に暮せるだらう、死ぬ時でも、良心に咎められもしないで、平氣で往生するだらう。いや、然し、此の僕がさうはさせん、見てゐろ、貴樣を深い澄んだ水面に引出してくれやう！　いゝか、この僕がその假面を剝ぎ取つてやる時、又世間が貴樣を甚麽人間かと直に解る時、さあ、其時は奈何だ、其態は、貴樣は其の第七重の高い天から、頭を下に眞倒さまにして、惡魔だつてもさうなつちや、引出すことの出來ないやうな、深い地の底の穴に墜落ち込んで了ふだらう！　僕は正直な人間だ、だによつて僕は醫者に眼を開けてやる、これ即ち僕の義務だ、だから僕はこの義務を盡して、さうしてもう直ぐに其の翌日、這麽いむべき郡から出で行つて了ふ。（考へる。）だが其方法は如何だ？　レベデフに說明するか？　いや、這麽ことは無駄な努力だ。決鬪を申込まふか？　赤耻を掻かしてやらうか？　何のことだ、僕は子供のやうに、どぎまぎしてゐる、斷乎とした決心が着かん、はて、奈何したものだ？　決鬪か？

Digitized by Google	Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

第二齣

コスイフ。（登場。喜ばしげにリヲフに。）昨日はよかつたでしたよ、小勝負で、クラブの贏牌でやつた所がね、勝つた、勝つた、非常に巧く行つたのでした、所がですな、あのバラバーノフのお蔭でとう／＼散々な目を見つちやつたのさ！ まあ恁う遣つたんですな、その僕が、贏牌なしでと極めたのです、所がね、先生はまづ無しでせう、それから二のクラブ、それからが又無しで、僕の方はダイヤの二………クラブの三………ねえ君、解りますか、それでね、僕がその勝負を極める時にですな、酷いぢやありませんか、先方ですねえ君、一を有つてゐながら見せないんでせう、奴がもし一を有つてゐるのを見せりや、僕は其時贏牌なしの大勝負と云つたものを、ねえ君。

リヲフ。いや勘辨して下さい、僕は骨牌は遣らんのですから、君の折角のお話も理解されんです、時にもう祝福の初まる時でせうな？

コスイフ。やがてゞせう、所がジュジュシカ夫人はねえ君、その持参金をくれるのが惜しいんで、鱘のやうな聲を出して泣いてゐるんです。

リヲフ。ぢや娘をくれるのが惜しいんぢやありませんか？

コスイフ。 いや持參金がです、それに又借金を皆踏まれるのが殘念なんでせう。さうでせう、婿ならもう手形は無効なものになつて了ふんですからなあ。

第三齣

ババキナ。（盛裝して出て來る。リチフとコスイフとの側を威張つて通る。後でコスタイが急に吹出したので彼女は後を顧る。）馬鹿らしい！

（コスイフは指で彼女の胴を些と突いて、ハヽヽヽッと大笑する。）

ババキナ。 百姓！（行て了ふ。）

コスイフ。（ハヽヽッと笑ふ。）あの女は氣が違つたよ！ 伯爵夫人にまたならうなんて望を起さない時分は、左に右、まだ普通の女は女だつたが、やあ、もう今は側にも寄りつけやしない。（口眞似する。）百姓！

リヲフ。（急込んで。）ねえ、君は奈何思ひますか、眞實を僕に話して見ませんか、あのイワノフに關してだ。

コスイフ。 別に云ふものはないです、骨牌なんぞと云つたら、まるきしお話にやならん、靴屋も同樣だ。去年のさうさ丁度嚴齋(ものいみ)の時だつけ這麽ことがあつたのさ、僕と、伯爵と、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ボルキンとそれから彼とだ、彼とだ、さうして僕が分けたんだね………

リヲフ。（言を遮つて。）「彼は良い人間かね？」

コスイフ。彼かい？　狡猾人間さ！　火も水も潜つた人間さ。彼と云ひ、伯爵と云ひ、二人を突包めてまあ五錢銅貨位な價値だらう。手の附け安いところを云やあ奴等は透さず臭ぎ付けたものだ。あの猶太の女に遣りそくなつて、此度は此方のジュジュシカの弗箱を覘つてゐるのだ。僕は斷言する、それについちや甚麽賭でもして見せる、又何に、三度のアナテマにされたつて構やしない、いゝかい、僕は云ふ、一年の後には彼は屹度ジュジュシカを全く乞食にして了ふつてんだ。彼はジュジュシカを、伯爵はバヾキナをだ。さうして錢を皆捲揚げて、財產を拵へてよく暮すんだらう。だがドクトル、君は奈何して今日は那樣に顏色が惡いんですか、まるで色艷がちつともないですなあ。

リヲフ。何でもないです、實は昨日少し飲過ぎた爲でせう。

第四齣

レベデフ。（サーシヤと共に登場。）此處で話をしやう。（リヲフとコスイフとに。）貴方々どうぞ彼方の廣間の令孃方の方へ行つて下さらんか、我々は少し此處で秘密な話があるのですから。

コスイフ。（立つて行きながらサーシヤの側を通つて、感心したやうに指をパチリと鳴す。）繪の如しか！　贏牌女王だ！

レベデフ。さあ行き給へ、この穴居人、さあ行き給へ。

（リチフとコスイフ退場。）

レベデフ。さあお掛け、お＼さうだ………（自分も掛けて後を振返りながら。）よく注意をして謹んで聽くのだ、い＼か、その要事と云ふのはね、お前のお母様から實は言附かつたことなんだ、詰り愢う云ふことを…………解るかね？　俺がこれを決して云ふんぢやないんだよ、お母様が俺に言へと云ふんだからな、そこをよく呑込んでな。

サーシヤ。お父様簡單にね！

レベデフ。では愢うだ、お前にな、持參金として銀貨で一萬五千圓だと云ふんだ、さうだ………後で彼れ此れ言はんやうに氣を着けるがい＼よ！　まあ、默つてゐな！　まだ、まだ、これは花だけだ、これからがそら實だ、い＼か、それでお前の持參金としては一萬五千圓だが、まあようく聽きな、所がだね、あのニコライ●アレクセエヰチにそらお母様からの借金があるだらう、その借金の九千圓だ、それを、その、まあお前の持參金の一萬五千圓の中から、差引くと云ふのだ…………で後の殘金がそれが即ちお前のまあ正

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

味の持参金と恁う云ふのだ…………

サーシヤ。ですが何の爲にそんなことを私に仰有るの？

レベヂフ。いや、それがその、お母様が言へと俺に言附けたのでな。

サーシヤ。もう止して下さい、那様に氣を揉ませないで下さい！　お父様がもしねえ、少しは私を重く見て、又御自分をも重く見てゐらしつたら私に那様ことは仰有られない筈ですわ、私、持参金なんぞ要りやしません、私、そんなことをお願した覺もなし、又これからだつてお願ひなんぞ致しません！

レベヂフ。だがお前は何んだつて又俺にさう喰つて掛るのだよ？　ゴーゴリの作の中に二匹の鼠があつて、初めにようく臭を嗅いでゐたが、旋て後で逃げて行つたと云ふことがあつたが、お前なんざあ何だ　新しい女とも云はれるものが臭を嗅ぎもしないで、さうしてからに行成この俺に喰つて掛るのだ。

サーシヤ。貴方々の金錢の細々した勘定で、私を那様に弄らないで下さい、さうして又私の耳を辱しめないで下さい。

レベヂフ。（赫と怒る。）フウッ！　（譯者註唾を吐く眞似をする）皆何奴も俺をさういじめぬく、俺がもう我慢しきれなくなつて自分で自分を小刀で刺しでもするか、人を斬殺しでもしたい程に！

一人は一日中泣叫んで、小言の百曼陀羅を並べて、たゞ細い錢勘定をしてゐる。又此方と云やあ、這麼伶悧な親切な人間のくせに、えゝい糞！　いくら新しい思想でもこの父親の心が解らんのかい！　私の耳を辱めるなんて！　いや俺はお前の耳をまだ辱めに此處へ來ん先に、彼方で（戸を差す。）まあ甚麽目に遭つたのだと思ふ、殆どざく\に斬りさいなまれて、八つ裂きにされたやうな目に遭つてるのだ、それでもお前は解らないんだ！　頭ももう茫然して了つて、思想も何も何處へか飛んで行つて了つたのだらう……何と云ふのだお前達は！　（戸の方に行つて立留つて。）俺は全く氣に入らん。お前達は皆氣に入らん！

サーシヤ。 何がお氣に入らないのです？

レベデフ。 皆俺にや氣に喰はない！　皆！

サーシヤ。 何が皆？

レベデフ。 いやね、態うお前の側に座つて、お前と話すんだがね、實を云ふとな何もかも氣に喰はないお前の結婚なんぞは見たくもないんだ！　（サーシヤの側によつて可愛がりながら。）お前は俺を怒らんでくれよシューロチカ、ひよつとしてたらそれでもお前の結婚は怜悧な、純潔な、高尚な一定の お前の主義によつての結婚だかも知れないが、だがね、何だ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

かそれについて、奈何もしつくりとそぐはない所があるよ！　この結婚が他の結婚とは、どうしても違ふやうな所がある。　お前は年若いし、水際立つてゐる、さうして純潔な、まるで水晶の塊のやうだ、其上に美しくもあるしね、だが彼は奈何だ鰥夫（をとこやもめ）で、もう可加減破れた、古ぼうけた人間だ、さうして俺には實はかの人間がよくまだ解らない、全く解らない。（娘を接吻する。）なあ、シユーロチカ許してくれよ、だが奈何と、奈何しても俺は彼が全く純潔なものとは云へないと思ふ。隨分人も彼のことについちや、いろいろ云つてるしな。何だか奈何も、あのサラが、死んでそれから間もなく俄に奈何したことか、お前に結婚がしたくなつたのだ………（元氣よく。）いや、だが俺も下らん奴だ、女だ、まるで女だ、女になつちまつた、ぴり／＼に古くなつたスカートだ。俺のいふことは訊かない方がいゝよ、誰れにも訊かん方がいゝんだ、全くだ、たゞお前は自分の思ふ通りにしなさい。

サーシヤ。お父樣、私自分でもね何だか少し變に感じますの………何だか變ですわ、私本統に苦しいの！　堪らない程苦しいの！　何でか工合が惡いわ、このことを考へるのは恐しいわ、お父樣、ねえ、お父樣、私に元氣をつけ下さい、どうぞ………敎へて下さい、奈何したらいゝんでせう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

レベデフ。 何が奈何したと、え、何が？

サーシヤ。 本統に恐しいわ、だけれど這麼ことはいつにもなかつたわねえ！（振向いて見る。）でもそれは大方私がまだ彼の人を解らないのでせうよ。さうして私にはもう一生彼の人を解られないかも知れない。思へばね、私が彼の人と契約を結んでからこのかた、彼の人は一度だつて微笑したこともなし、又私の眼を眞直に見もしないの、何時も何時も、喋して、悔んで、何か暗に慿う罪があるやうに云つてゐるの、顫へて……私も何だか疲れたやうだわ、或時は慿うさへ思ふことがあります、私……屹度彼の人をそれほどに要る位な程度に強く愛してはゐないのだと、さうして彼の人が私の家へ來て、私と話をする時には、私もういつも退屈になつて了ふわ。何の譯でせうね、お父様、私恐しいわ！

レベデフ。 うむ、可愛い俺の大事なシユーロナチカ、なあ、年を取つた父の云ふことをお聽き、え、お前彼に辭りなさい。

サーシヤ。（吃驚して。）何ですつて、え、何ですつて！

レベデフ。 全くだ、シユーロチカ、そりや、さうしたらまたこの郡内ぢや、奈何の、慿うのと大騒になつて囃立てるだらうが、然しな、一時の騷動は返しても、一生を葬つて了

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ふよりはまだしも增しだ。

サーシヤ。 もう有仰らないで頂戴、もうどうぞお父樣！　私聞くのは厭です、這麽私の暗い考へとは、本統に戰はなければならないんです。彼の人は良い人です。不幸な人で、人に誤解されてゐる人なのです、私はあの人を愛します、さうして彼の人を解つて、彼の人にしつかりと其足で立たせて見せます、私自分の問題をちやんと解決致して見せます、もう固く決心をしてゐるんです！

レベデフ。 こりや問題ぢやなんだ、精神病なんだ。

サーシヤ。 いゝえ、もう澤山です、私自分が自分で思ふのも厭であつたことを、もう皆お父樣にお打明けして了ひました、どうぞ誰にも云はないで下さい、お互に忘れて了ひませうね。

レベデフ。 些とも譯が解らない、或は俺は年の爲で愚になつたのか、或は他の者が秀れて怜悧になつて了つたのか、何んだか俺はもう其麽に斷りさいなまれても、些つとも譯が解らんよ。

（第四幕未完）

瀨沼夏葉譯

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

出奔 ——野枝——

不味い朝飯を濟すと登志子は室に歸つて行つた。椽側の日あたりに美しく咲きほこつてゐた石楠ももう何時か見る影もなくなつた。

この友達の處へ來て丁度もう一週間は經つてしまつた。何時までも此處にゐる譯には行かないのだにどうしたらいゝのだらう。何故あの時すぐに博多から上りに乘つてしまはなかつたらう、わづかな途中の不自由とつまらない心配の爲めにこんな處に來てしまつて進退はきはまつてしまつた。打ち明けねばならないことなのだけれども友達にもまだ話はしない話したらまさか『さう』とすましてもゐまいけれども話すのがつらい。やさしい氣持ちをもつた人だけに餘計話しにくい。登志子は呆然と其處の塀近く咲いてゐる桃を眺めてさしせまつた自分の身のおき處について考へやうとしてゐた。

『いゝ天氣ね、今日歸つて來たら一所に其處らを歩いて見ませうね』

何時の間にか志保子——友達——は質素な木綿の筒袖に袴をはきながら晴やかな微笑を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

浮べて物思つてゐる登志子の横顔をのぞいて慰ぐさめるやうなものやさしい調子でかう云つた。彼女は四五年越し會はなかつた友達の不意の訪問におどろきながらも一通りならずよろこびながら。

『本當にうれしいわ、何時までもゐて頂戴ね、いゝんでせういくら遊んでゐても、ね？いゝでせう、私ほんとにつまらないつまらないと思つてゐた處なんだからどんなにうれしいか、本當にゐて頂戴』

心から懷しさうな調子だつた。登志子は今し方あの寒い冷たい雨の中を方面も分らない知らぬ田舍道を人力車にゆられて長い長い道を此處まで來る間の心細さとこれから先きの自分の身の上についてのさまざまな事のもつれを思つて震える悲しみをぢつと嚙みしめてもし友達のゐない時にはどうしたらいゝか、そんなことはないとは信じながらも若しかして志保子の調子が冷淡で自分がわざわざ尋ねて行く目的を果すことが出來なかつたらどうしたらいゝかと云ふやうなすぐ目前に迫つた事柄について考へ考へわくわくしながらこの家をたづねあてるまでの氣を想ひ出してそれ等の一つに凍つた悲しい氣分が友達のその暖い言葉やもてなしに會ふてはじめて溶けて行く樣に思へた。そして彼女は淚を一ぱいに湛へた目で志保子の顏を見げながら僅かにうなづいたきりだつた。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『私ねずいぶん見すぼらしいなりしてゐるでせう。ふだんのまんま家を逃げ出して來たのよ、直ぐにね東京へ引き返して行かうと思つたんですけれど少し考へることがあつてあなたの處へ來たの、長いことはないのだから置かして頂戴な』

漸くこれ丈け云ひ出したのは冷たい床の中に二人して這入つてからよほどいろんなことを話して後だつた。

『まあさう、だけどどうして默つてなんか出て來たの、どんな事情で？　さしつかへがないのなら話してね、私の處へなんか何時までゐてもいゝことよ、何時までもゐらつしやい、あなたがあきるまで――でも本當にどうして出て來たの』

『いづれ話してよ、でも今夜は御免なさいね、隨分長い話なんですもの』

『さう、それぢや今にゆつくり聞きませう、あなたのゐたい丈けゐらつしやい。ほんとに心配しなくてもいゝわ』

『ありがたう。安神したわ、ほんとにうれしい』

こうした會話をかはしたきりに登志子は一週間たつ今日までそのことに就いては何にも話さなかつた。何にもかまわずぶちまけて了ふやうな性質な登志子が話しにくさうな風なのでもつて志保子はよほど大事なことだらうと思つて強いてそれを聞くのを急ぎもし

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

なかつた『今に時が來たら話すだらう』と思ひ〳〵過した。

志保子は直ぐ家の門を出ると見える處にある小學校に勤めてゐた。登志子は毎朝志保子を送つて門まで出ては黄色な菜の花の中を歩いて行く友達の姿を見送つた。そして室に歸ると手持無沙汰考へ込むでは何時か晝になつたことを知らされるのであつた。

『今日はどうしてもすつかり話してしまはう』と思つては毎日話の順序をたてやうとした。けれども苦しいその努力は何時も無駄に終つて只だ今迄自分の歩いて來た長い道程に沿ふて起つたさま〴〵な出來事や、そのうちにも今度自分が遂にすべてを棄てゝ頑迷な周圍から逃がれるやうになつた動機やこの間の苦悶に思ひを運ぶととてももう靜かに頭の中で話の筋道をたてゝ見るなど云ふことは出來なくなつてしまふのであつた。そして思ひはたゞ徒に自分が無斷で出た後の家の混雜父の當惑の樣子、叔父や叔母達の散々に自分のことを云ひのゝしる樣子や、母の憂慮、さう云つた方にばかり走つて行つた。そんな時には、自分の道を自分の手で切り開いて行く最初の試みをしたと云ふやうな何處か快よい氣持等はまるで失くなつてたゞ暗い氣持ちになつて、また父の傍に泣いて歸つて行かうかと云ふ樣な氣になつたり、また、一層深く考へを進めるともう死を願ふより他仕方がないとさへ思ふ日もあつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

志保子は注意ぶかく登志子の樣子を觀てゐた。彼女は登志子が夕方など沈んだ目付して椽側にボンヤリ立つてゐた夜はきつと近所の子供を集めて騷がしたりして登志子の氣持ちをまぎらすやうにつとめた。然しさう云ふ時にかぎつて彼女は、更に、深い、云ふに云へない寂しさ遣瀨なさに惱むのであつた。さうしては志保子の美しい澄んだ目にはつきり浮ぶ優さしい暖い友情にしみ〴〵泣いた。

どうかして志保子の歸りの遲い時には登志子は二度も三度も門を出てはすぐ其處に見える學校の屋根ばかり眺めてゐた。黄な菜の花の間に長々とうねつた白い道を見てゐると遠いその果もわからない道がいろ〳〵なことを思はせて、つい涙ぐまれるのであつた。前を通る人達は見なれぬ登志子の悄然と立つた姿をふしぎさうにふり返つて見て行く。そんな時登志子はもう本當に遠い〳〵知らない處にたつた一人でつきはなされた樣な氣がして拭いても〳〵涙が湧いて來て、立つてゐられなくなつて來る。燈をつけても燈の色までが恐しく情ない色に見えた。讀む書物をもつて出なかつたことがしきりに悔ひられた。うすらかなしい燈の色を見つめながら彼女は何時も目をぬらして友達を待つた。それでもなほ悲しい心細い考へが進まうとする時は彼女はのがれる時に持つて出た光郎の手紙を開いて讀んでは紛らした。さうして心弱い自分の氣持ちをいくらかづゝ引きたてるのたつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

今朝も志保子が出て行つた後で登志子は考へることより他に何にもすることがなかつた。本當に、いつまでも志保子の世話になつて此處にゐる譯には行かない。と云ふことが第一に毎日登志子の頭に上つて來るのだ。が今どうするにしても金の問題だ。登志子は初め歸つたとき豫め自分の考へをもしかして實行する時の用意に、十圓近くの金を懷にしてゐた。併しその金七十日近くブラ〳〵してゐるうちに何彼と半分以上も使つてしまつた。併もさう云ふ豫期を持ちながらいよ〳〵出て來るときは不用意に、フラ〳〵と出てしまつた。着更への着物も持たず金を用意するひまもなくつい〳〵出てしまつた。福岡まで出て來て、叔母の家へも友達の家へも足りない金の算段をするつもりで訪ねた。然しとう〳〵云ひ出し得ずに止めてしまつた。金が出來ないと云つて夜になつて再び家へフラリと歸り度くはない。歸つてかへれないことはないがもう一度出たものを歸る氣はどうしてもない。仕方なしに三池の叔母の家まで行つた。其處でも遂に話し得ずに、そして家出したことが知れさうになつて思案にあまつてこの友達の家まで來た。手紙を出して頼んだら應じてくれる的のある人が二三人はある。その人に相談する間も見つけ出されて連れかへられさうな處はいやだと思つて志保子をたよつた。然し一週間になるけれども何處からも返事は來

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ない。たのんだ金が出來ないとしてもそのまゝではゐられない。どうしたらいゝのだらう。さう考へて來ると登志子はもう今日までたゞイラ〳〵して、もう、どうなつてもいゝなるやうにしかならないのだ、いつそ墮ちられる丈けどん底まで墮ちて行つてこの目覺めかつた自我を激しい眩惑になげ込んで生きられる丈け烈しい强い、悲痛な生き方をして見たい。あの生命がけでその日〳〵を生きて行く炭坑の坑夫のやうなつきつめた、あの痛烈な、むき出しな、あんな生き方が自分にも出來るのなら、こんなめそ〳〵した上品ぶつた狹いケチな生き方よりどの位氣が利いてゐるかしれない。いつそもう、親も兄妹も皆捨てた體だ、墮ちる體ならあの程度まで思ひきつてどん底まで墮ちて見たいと云ふやうなピンと張つた恐ろしく鳴りの高い調子な時もあるし、またもう自分の行く道は皆阻まれてしまつたのだこれから先き苦しんで働いて見た處で矢張り何にも大したことも出來ないし、自分でどうしても開かなければならないと信じてすべてのものに反抗して切開いた、道の先きはまつくらで何にもない。自分を自由に扱ふことの出來るよろこびの快よい氣持に浸つたのはこのまゝ逃れやうと決心した瞬間だけであつた。今日まで一日だつて明るい氣持ちになつたことはない。何時も忌々しいと思ひながら肉身と云ふふしぎなきづなに締めつけられて暗い重くるしい氣持ちがはなれない。自分ではいくらか上京したら光郎をたよるつもり

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

でも光郎の氣持だつてどちらを向くか分らない。考へると不安なことばかりだ。あゝいやだ何處か人の知らない處に行つて靜かな死にでものがれたい。何處へ向いて行つても行き止りは死だ。早かれ遲かれ死だもの。どうにでもなれと云ふやうな氣にもなつた。もう毎日のことに隨分考へも考へたが疲れてしまつた。もう何にも考へまいと思ひ〳〵矢張りそれからそれへと考へは飛んで行つた。

『郵便！　藤井登志と云ふ人ゐますか』

『ハイ』

出て見ると三通の封書を渡された。一通はN先生、一通は光郎。あとのはねづみ色の封筒に入つた郵便局からのだ、あけて見ると電報爲替だ。N先生から送つて下すつたもの、先生からこうしてお金を送つて頂かうとは思はなかつた。と思ふと登志子はもう涙を一ぱい目に溜めてゐた。一昨日も先生の電報を見た時に先生はこんなにまで氣をつけて下さるのかと登志子は矢張り涙ためて志保子に先生のことを話した。

登志子は直ぐ先生の手紙を讀んだ

『御地からの手紙を見て電報を打つた。意味が通じたかどうかと思つて今も案じてゐる、金に困るのならば何處からでも打電して下さい、少々の事は間に合せますから、弱い心

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

は敵である。しつかりしてゐらつしやい、事情は猶ほ悉しく聞かねばわからないが兎に角自分の眞の滿足を得んが爲めに自信を貫徹することが卽ち當人の生命である。生命を失つてはそれこそ人形である。信じて進む所にその人の世界が開ける。

『如何なる場合にもレールの上などに立つべからず決して自棄すべからず

心强かれ　取り急いでこれ丈け。

今家へあて出した私の手紙の最後の一通があなの家出のあとに屆いたであらうと思はれる、誰れか開封して檢閱に及んだかもしれない、熱した情を吐露した文章であつたからもしそれを見た人があるとすればその人は幸福である。』

先生はこんなにまで私の上に心を注いで下さるか、私は本當に一生懸命にこれから自分の道をどんなに苦しくともつらくとも自分の手で切開いて進んで行かなければならない。私は決して自棄なんかしない。勉强する、勉强するそして私はずん／＼進んで行く。こんなにぐづ／＼してはゐられないと登志子はしつかり思ひ定めて光郞の手紙を最後にあけた。輕い或るうれしさにかすかに胸がをどる。

『オイ、どうした。俺は今やつと「S」を卒業したところだ。もう彼れこれ十二時頃だと

思ふ。明日から仕事が始まるのだから「早くねなさい」と相變らず御母さんがおつしやつて下さるのだが、こつちは相變らずの親不孝なのだから「え」とか何とかなま返事をしてまだグズ〳〵起きてゐる。でこれから何か又少しものを言つて見やうと思ふ。

明日あたりまた手紙が來ることだらうと思ふが――俺がこないだ書いた手紙はかなり向ふ見ずなものだつたなあ、まあ、然し俺はあんなことが平氣で書けることを自分では頼もしいと思つてゐる。俺は口に出して實は云つてみたいと何時でも思つてゐるのだが中々口は云ふことをきかないて。三日の手紙は可なり痛快な氣持ちを抱いて讀み終つた。大分孤獨をふりまはしたな、人間は孤獨なものよ――深く突込んで思索したら何人でも救はれることの出來ない孤獨の淋しさにおそはれるだらう。しかし世の中には色々なものがあつてそれを暫くでも胡麻化してくれる。宗敎、藝術、酒、女（女から云へば男）などかそれだ。無論各自の程度によつて求むる種類と分量と云ふやうなものは異つて行くだらうが、兎に角そんなものなしには一日も生きて行くことは出來ないのだ。

血肉の親子兄弟――それがなんだ。夫婦朋友それがなんだ、大抵はみな恐ろしく離れた世界に住んでゐるぢやないか、皆恐ろしい孤獨に生きてゐるぢやないか。併し偶々稍や同じ様な色合の世界に住んでゐる人等が會つて、そうして出來る丈けお互ひの住んで

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ゐる世界を理解しやうと務めてかなり親しい間柄を結んで行くことがある。それは實に僥倖と云つてもいゝ位だ。尤も理解と云ふ意味には色々ある。二人が全然相互に理解すると云ふやうなことはまあ〳〵ないことだと思ふ。また出來もしないだらう。たゞ比較的の意にすぎない。

俺は筆をとるとすぐこんな理屈つぽいことを喋舌つてしまうがこれも性分だから仕方ない許して貰はう。俺は汝を買ひ被つてゐるかもしれないが可なり信用してゐる。汝は或は俺にとつて恐ろしい敵であるかもしれない。だが俺は汝の如き敵を持つことを少しも悔ひない。俺は汝を憎む程に愛したいと思つてゐる。甘つたるい關係などは全然造りたくないと思つてゐる。俺は汝と痛切な相愛の生活を送つてみたいと思つてゐる。勿論悉ゆる習俗から切り離された――否習俗をふみにじつた上に建てられた生活を送つてみたいと思つてゐる。汝に其處までの覺悟があるかどうか。そうしてお互ひの「自己」を發揮するために思ひ切つて努力してみたい。もし不幸にして俺が弱く汝の發展を障げる樣ならお前は何時でも俺を棄てゝどこへでも行くがいゝ。

（八日）

おとゝいの晩は酒を飲んでゐる上にかなり疲れてゐたものだから二三枚書くともうた

まうなくなつて來て倒れてしまつた。昨夜も書かうと思つたのだが汝の手紙がきてからと思つてやめた。二日許りおくれてもやつぱり氣になるのだ。今日歸ると汝の手紙が三本一緒にきてゐたのでやつと安心した。今夜ももう例によつて十二時近いのだが俺はどうも夜おそくならないと油がのつて來ないのでなにが書く時には必ず明方近くまで起きてしまう。それに近頃は日が長くなつたので晩飯を食ふとすぐ七時半頃になつてしまふ。俺は飯を食ふとしばらく休んで、たいてい毎晩の樣に三味線を弄ぶか歌澤をうたう。或は尺八を吹く。それから讀む。そうすると忽ち十時頃になつてしまふ。何にか書くのはそれからだ。今夜はこれを書き初める前に三通手紙を書かされた。俺は敢て書かされたと云ふ。Nへ、Wへ、それからFへ、なんぼ俺だつてこの忙しいのに、そう／＼あつちこつちのお相手は出來ない。それに無意味な言葉や甘つたるい文句なぞを並べてゐるといくら俺だつて馬鹿／＼しくつて涙がこほれて來らあ。人間と云ふ奴は勝手なものだなあ。だがそれが自然なのだ。同じ羽色の鳥は一緒に集まるのだ、それより他仕方がないのだ。だが俺等の羽の色が黒いからといつて全くの他の鳥の羽の色を黒くしなければならないと云ふ理屈はない。

（十三日）

學校へ「トシニゲタ、ホゴタノム」と云ふ電報がきたのは十日だと思ふ。俺はとう〳〵やつたなと思つた。しかし同時に不安の念の起るのをどうすることも出來なかつた。俺は落ち附いた調子で多分東京へやつて來るつもりなのでせうと云つた。校長は即座に「東京へ來たら一切かまはないことに手筈をきめやうぢやありませんか」と如何にも校長らしい口吻を洩らした。S先生は「知らん顔をしてゐやうぢやありませんか」と俺にはよく意味の分らないことを云つた。N先生は「兎に角出たら保護はしてやらねばなりますまい」と云つた。俺は「僕は自由行動をとります。もし藤井が僕の家へでもたよつて來たとすれば僕は自分一個の判斷で措置をするつもりです」とキツパリ斷言した。みんなにはそれがどんな風た聞えたか俺は解らない。女の先生達は唯ば呆れたといふ様な調子でしきりに驚いてゐた。俺はかうまで人間の思想は異ふもかと寧ろ滑稽に感じた位だつた。S先生はさすがに汝を稍や解してゐるので同情は充分持つてゐる。だが汝の行動に對しては全然非を鳴らしてゐるのだ。俺はいろ〳〵苦しい思を抱いて默つてゐた。其日歸ると汝の手紙が來てゐた。俺は遠くから客觀してゐるのだからまだい丶として當人の身になつたらさぞ辛いことだらう、苦しいことだらう、悲しいことだらうと思ふと俺は何時の間にか重い鉛に壓迫されたやうな氣分になつて來た。だが俺は痛烈な感に打たれて心は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

勿論昴つてゐた。それにしても首尾よく逃げおうせればいいがとまた不安の念を抱かないではゐられなかつた。俺は翌日(即ち十二日)手紙を持つて學校へ行つた。勿論知れてしまつたのだから秘す必要もない。そうして手紙を見せて俺の態度を學校に明かにする積りだつたのだ。で、俺は汝に對してはすこしすまない樣な氣はしたがS先生に對しても俺は心よくないことがあるのだから。

(十四日)

昨夜少し書く積りだつたのだがまた疲れが出てしまひの方は何を書いてゐるのだか解らなくなつた。俺は意氣地のないのに自分で呆れてしまつた。

俺は今歸つて來た。五時頃だ。汝の手紙を讀むと俺はすぐ興奮してしまつた。俺はこんな手紙なぞ書くのがめんどくさくつてたまらないのだ。だが別に仕方もないのだから無理に激してゐる感情を抑へつけて書くことにしやう。話を簡單にはこぶ。

十二日、即ち汝が手紙を出した日に永田といふ人から極めて露骨なハガキがまひこんだ。「私妻厰井登志子」と云ふ書き出しだ。そうして多分上京したらうから若し宿所が分つたら早速知らしてくれ、父と警官同道の上で引きとりに行くと云ふ文句だ。更に附加へて自分の妻は姦通した形跡があるとか同志と固く約束したらしいとか云ふことが書い

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

てあつた。妻に逃げられたのだからそんな風に考へるのは無理もない話だ。俺は汝が去年の夏結婚したと云ふ話は薄々聞いてゐた。しかしそれが奈何事情のもとになされたものかは俺には無論解らない。そうして勿論汝自身から聞いたのでないから半信半疑でゐたのだ。だが俺は色々と出來る丈け想像は廻らしてゐた。しかし永田と云ふ人は兎に角「私妻」とかいてきたのだから俺は形式の結婚は兎に角やつたものと認めない譯にはゆかない。然し俺は無論そんなことは眼中にはないのだ。俺はたゞ汝が歸國する前になぜもつと俺に向つて全てを打ち明けてくれなかつたのだとそれを殘念に思つてゐる。少くとも先生へなりさ話して置けば俺等はまさか「そうか」とその話を聞きはなしにしておくような男ぢやあない。それは女としてそう云ふことは打ち明けにくからう。しかしそれは一時だ汝が全てを打ち明けないのだからどうすることも出來ないぢやあないか、然し問題は兎に角汝がはやく上京することだ。どうかして一時金を都合して上京した上でなくつては如何することも出來ない。俺は少くとも男だ。汝一人位をどうにもすることが出來ない樣な意氣地なしではないと思つてゐる。そうして若し汝の父なり警官なり若くは夫と稱する人が上京したら逃げかくれしないで堂々と話をつけるのだ。俺は物を秘かにすることを好まない。九日附の手紙をS先生に見せたのも一つは俺は隱くして事をする

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

のが嫌だからだ。姦通など云ふ馬鹿々々しい誤解をまねくのが嫌だからだ。イザさなれば俺は自分の位置を放棄しても差支ない。俺はあくまで汝の身方になつて習俗打破の仕事を續けやうと思ふ、汝もその覺悟でもう少し强くならなければ駄目だ。兎に角上京したら早速俺の處にやつてこい。かまはないから、俺の家では幸にも習俗に囚はれてゐる人間は一人もゐないのだから。母でも妹でも隨分わけはわかつてゐる。そうして俺を深く信じてゐるのだ。勿論汝に對して深い同情を有してゐる。遠慮をせずにやつてくるがいゝ、だが汝はきた上でとても俺の內に辛抱が出來ないと思つたら、何時でもわきに行くがいゝ俺は全ての人の自由を重んずる。御勝手次第たるべしだ。それにN君も心配してゐるのだから、それにS先生だつて汝の理解出來ないやうな人ではなし、なんでも永田と云ふ人の處に「あの女はとても駄目たから、あきらめた方がいゝ」と云ふ樣な手紙を送つたさうだ。兎に角東京へくれば道はいくらでもつく、そんなに心細がるなよ、だか汝は相變らず詩人だな、まあ其處が汝の尊いところなのだ。今に落ち付いたら詳しく出奔の情調でも味ふがいゝ。俺は近頃汝のために思ひがけない刺戟を受けて毎日元氣よく暮してゐる。ずいぶん單調平凡な生活だからなあ。

上京したらあらいざらひ眞實のことを告白しろ、其上で俺は汝に對する態度を一層明

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

白にする積りだ。俺は遊んでゐる心持をもちたくないと思つてゐる。

なんしろ離れてゐたのぢや通じないからな、出て來るにも餘程用心しないと途中でつかまるぞ、もつと書きたいのだけれど餘裕がないからやめる。

（十五日夜）

いろ〳〵なすべての光景が一度になつて過ぎて行く。今まではまるでわからなかつた國の方のさわぎもいくらか分るやうな氣もするし學校での樣子などもあり〳〵と浮んで來る。此處から上京する迄の間に見つかるなど云ふことも今まで少しも考へなかつたのに急に不安に胸を波打たせたりしながら讀み終つて登志子はしばらく呆然としてゐた。

「結婚した、」と云はれるのが登志子には淚の出るほど口惜しかつた。併し矢張りしたと云はれても仕方がなかつた。登志子自身の氣持ちではどうしても結婚したと云ふことは考へられないのだけれど――彼女はその時から今日を豫想してそれが一番自分に非道な強ひ方をした者に對する復讐だと思つた。然し今自分の氣持の何處をさがしても、しかへしをしてやつてゐるのだと云ふやうな快さは更になくて却つて自分が苦しんでゐるやうに思はれる。登志子は手紙を讀んでしまふといろ〳〵な感情が一時にかきまはされてときの聲をあげて體中を荒れ狂ふやうに思はれた。だん〳〵それが靜まるにつれて考へは多く光郞と自

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

分の上にうつつて行つた。そうして目は何時か姦通、と云ふ忌はしい字の上に落ちて行つた。

「本當にさうなのかしら」

考へると登志子は身ぶるいした。あの當時登志子の胸は悲憤に炎えてゐた。何を思ふひまも行ふ間もなかつた。「慘酷なその强制に報ひる爲めには?」と云ふ問題ばかりが彼女の頭の中にたつた一つはつきりした、一番はつきりしたそしてその場合に於けるたつた一つの問題として與へられたのだ。勿論かうした男の愛をそんなにもはやく受けやうとは思ひもよらなかつたのだ。强制された不滿な結婚の約を破ることは登志子にとつてはいともやさしいことに思へた。そして猶ほ彼女は修學中であつた。共棲する迄には半年の猶豫があつたのでその間にどうにもなると思つてゐた。

　歸校後の登志子は殆んど自棄に等しい生活をしはじめた。彼女と一緒にゐた從姉は唯だ驚いてゐた。登志子は幾度かその苦悶をN先生に訴へやうとした。併し考へることの腹立たしさに順序をおふて話のすぢ道をたてることが出來なかつた。そうしてなるべく考へないことにつとめた。その頃は、勿論光郎にはそんなことをむきつけに話せるほどの間ではなかつた。煩悶に煩悶を重ね焦り〳〵して頭が動かなくなるほど毎日そればかり考へてゐ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ても登志子の考へはきまらなかつた。日數は遠慮なくたつて、とう〳〵Ｎ先生にも打ち明ける機會は失くなつてしまつた。最後に大混雜の中にやうやく仕方なしに漠然と極めたことは嫌やな〳〵あの知らない男や八ケましい周圍から逃れることが第一であつた。見た計りでも自分よりずつと低級らしい、そして何の能もないらしい間のぬけた顏をしたあの男とどうして一時間でもゐられるものではないと登志子はそればつかり思つてゐた。考へて見ると登志子は姦通呼はりする男が憎らしくなつて來るよりも滑稽になつて來た。あの男にさう云ふことを云へる丈けの確信が本當にあるのかと可笑しくなつて來た。「私妻」等と書かれたことの腹立たしさよりもれい〳〵しく書いた男が滑稽に思へて來た。寧ろ登志子は光郞に對して何か罪でも犯したやうな氣がした。別れてからまだ半月とはたゝない。もう併し一年も間をおいたやうに思はれるのだ。何でもいゝ早く上京したい。行つてみんな話してやる、本當のことをみんな話さう、Ｎ先生にしろ、光郞にしろ、自分の話はきつと解つてくれるに違ひない。東京に行きさへすれば――さうだ、行きさへすればきつときつと………

登志子は目を据えてついたときのことをいろ〳〵に想像して見た。唯だ彼女の氣持を時々不快にするのは、光郞との戀の爲ばかりに家出した。と思はれることだつた。彼女は何

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

となしにそれについて自分にまで辯解がましいことを考へてゐた。けれどもそれも一つの動力になつてゐると思へばそんなことはもう考へてゐられなくなつて今日にも行くやうにしたいのだつた。

登志子はからつぽになつた處に、はやく行きたいと云ふ矢も楯もたまらない氣持がたつた一つ一ぱいに擴がつた何時にないたのしい氣持ちで爲替の面をぢつと見つめながら鏡を出して頭髮にさしたピンを一本々々ぬいて行つた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

獨立するに就いて兩親に

―らいてう

お母さんの御病氣がよくおなりになつてから申上げようと實は思つて居たのですが、御病氣の原因は矢張り私の近い中に實行しやうと先頃來只獨りで、だまつて準備いたして居ります或事に對する御心配にあると知りましたので、今は一刻も早く事の總てを明にし、私なり、又私の思想なり、生活なり、わけても只今私の計畫し、準備して居りますことに就いて出來る丈知つて頂いて、出來ることなら無駄な御心配丈は取去つて、少しでも安心して頂きたいと存じますので、御病中にも拘らず申上げることにいたしました。ほんとなら御兩親の前で細いことまで一々御話した方が相互の意志が疏通し、感情が融和していゝのでございませうが、御承知の通り私は口無精な者ですし、又もつて生れた私の妙に人に親しみ得ない硬い心は我が子を信じて何處までも寛大な態度を見せて下さるお父さんに對しても、また子のために御自分の總てを捨てゝゐらつしやる情愛深い、やさしいお母さんに對しても三十年近くも同じ家に朝夕顔を合せてゐながら、悲しいことにはまだ一度も眞

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に打解けた御話も出來ずに今日まで來た位ですから（殊に最近數年、御互に口に出して、それとは云はないものゝ、自分の思想や生活と御兩親のそれとの間に到底調和し得ない隔りのあることが益々分明になつて、日常の一寸したことに對する考へや、感じ方も全く違ふやうになつて以來、私は特に家にあつては心の閉された、孤立したそして家の中の總ての出來事に無頓着な、沈默家になつて仕舞ひましたから。）こんども御目にかゝつては蛇度思つてゐることの十分の一も云へまいと思ひますので故と書くことにいたしました。

私は今、お母さんがそれとなく御氣付きになつて大變案じてゐらつしやる通りここ二三日の中に長い間私を育てゝ下さつたこの御兩親の家を出て私の獨立した生活を始めやうと、その準備が大小となく殆ど總て整つたといふことは事實に相違ないのでございます。

今日まで御相談は愚か、そのけぶりも見せずに只獨りだまつて着々實行の歩を進めて參りましたことは御兩親としては甚だ面白からずお思ひになることは御尤なことですし、現に昨日も一寸お母さんのお口から「御前はお前ひとりの都合や、勝手でいゝやうに極め込んでゐるやうだけれど、物事はさうは簡單にはいくものではない。家には家としての考へがあり、親には親としての立場からしなければならないこともあるではないか。何も御前のしたいといふことをさせないといふのぢやあるまいし、ものには順序といふものがある。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

相當の手續といふものがある。今度のやうなことはまづ親兄弟に相談し、相方で一番都合がいゝといふ處をとつて行つて貰はねばならぬ。それに親類の人達にも一應は話さねばならぬし、いくらお前の方の準備ばかり出來てゐたつて、さう、さう明日明後日のといふやうな譯にはいかない。ほんとにお前はどんな重大なことでもだまつて知らぬ間にやつて仕舞ふのだから心配でならない。お前のやり口は丸で親を出し拔いて、びつくりさせて、困らせる丈困らせて獨りで喜んでゐるのだとしか思はれない。同じことをするのだつてもつと穩當な仕方もありさうなものを、それぢや親を敵にしてゐるのだと思はれたつて仕方がないぢやないか。」といふやうな御言葉も出ました。其時お母さんのいかにも御心配さうな御顏付や、涙をみますと、御氣の毒になつて氣弱な私として一緒に泣いて仕舞ひましたので、何も申上げられませんでしたけれど、一體、私は何事によらず、又何人に對してに限らず、或一事を必ず實行しやうと深く決心した以上は、その計畫がなり、準備が整つて、いつ何時でも實行し得るといふ段取になるまでは決して口外しないのがこれ迄の習慣なのでございます。私の過去の貧しい經驗がいつか私にかういふことを敎へてくれたので、私はこれによつて今日まで大ていのことは効果を收めて參りました。殊に今回の問題はその性質上、いろんな因習思想や感情の妨げを受けて肝心な問題の精髓が閑却され、やゝもすれ

ば枝葉の問題や從屬的事項のために思はぬ面倒を引起し、實行を困難にし遲延させる恐れがあると思ひましたので特に秘密の間に出來る丈事を運んだまでで何も他意あつてのことではありませんから、どうぞ惡い意味に御取りにならないやうに、そしてこの點を御咎めにならないで以下私の申述べやうといたします處を靜に御聞き取り下さるやうに豫め御願ひいたします。御讀み下さりさへすれば屹度御了解頂けることと存じますから。

私の頭に獨立といふ事がたゞ思想として芽ざしたのはもう餘程に舊いことのようですが、それが稍實際的の色を帶びて考へさせられるやうになつたのは女子大學卒業當時、今から丁度八年前が始めてだつたかと思ひます。其當時私はともかくもかうして一人前の女にして頂いた以上は必要に迫られてゐるゐないに拘らずいつまでも親によりかかつてゐるといふことは自分として氣が濟まぬ、早晩何とかして自活の道を講ぜねばならぬといふやうな考を抱いて職業を探したこともありました。けれど私は所詮只生きるために働くといふことそれ自身に人生に於けるそれほど重大な、根本的な價値を認めて居りませんでしたから（といふのも何不自由ない家庭に生れて生活の問題を切實に感じないからかも知れませんが）生活のための仕事が私の生命として何よりも尊重してそれを妨げられることを何よりも恐れてゐる私自身の內生活を完成するための仕事との間に矛盾のあるやうに感じられ

ます時、私の心には臆病風がむく〳〵と起きて、まあ、まあ出來ることなら成るべく生活問題には觸れずにゐたい、そして私の有ち得る總ての時間を讀んだり、書いたり、考へたりすることに思ふさま使ひたいといふやうな考へにいつも落ちて行くのでした。(それに一方で非常に根本的な意味で、私の心の奥底にはいつも出家の生活に對する憧憬と要求が殆ど本能的なものとなつて動いてゐましたから)私が今日の日まで其必要を感じながらもぐず〳〵として思ひ切つて御兩親と別になつて、獨立する丈の勇氣が出て來なかつたのは全くこの不安や杞憂に他ならなかつたのでございます。ところが一方、私の心の中には何としても獨立せねばならぬ、早く自分の生活を一變せねばならぬといふ要求が日一日ともつと實際的の形をとつて增して來るばかりでした。別々な思想をもつて、別々な仕事をし、別々な道を歩んでゐる親と子がいつまで一つ家に住んでゐることは相互の生活を不純にし、不徹底にするばかりで、少しの幸福も增さないのみならず、ひいては親子間の感情まで傷ける恐れのあるものだといふことをしみ〴〵と感じて參りました。それは私が「青鞜」を發行し、私の思想なり生活なりを多少發表するやうになつて、否應なしに、私と社會との交渉が始まり、私の社會的位置とでもいふやうなものが出來るやうになつて以來殊にその感が深くなつて參りました。私の此の仕事に對するお父さんの寛大な態度、我々とは時

代が違ふのだからと仰有つて私にいつも御許し下さる多くの自由は到底今日の日本の家庭に於ける親子關係に於ては見られない程のものだといふことを私はいつも有難く思つて感謝いたして居ります。けれどそれ丈私には不思議に苦しいのです。そして妙な氣兼が段々積つてくるばかりでした。といふのは、いつぞや「青鞜」が治安妨害の廉をもつて發賣禁止となりました時、そしてそれが多分世間から社會主義者と目されてゐるFさんの論文のためだらうと云ふことだつた時、お父さんは政府の一員――官吏としての立場から「もし青鞜にどうしても社會主義の人のものを出さねばならないのなら、又お前がさういふ主義の人々とどうしても交際せねばならないといふなら父に累を及ぼさないやうに何より先にこの家と關係を絕つてもらひたいといふやうな御言葉があつた外、(こゝで重ねて申上げますが實際に於て、私はお父さまが御心配になつたやうに社會主義の人に友達をもちませんし、又同主義の思想にはもと／＼あまり同情も同感も有つてゐないのです。)あの例の新しい女といふやうな言葉が一種輕跳な流行語となつて、それに對する無理解な俗衆の罵詈冷笑や、舊思想の所謂識者の攻擊や壓迫が私の頭の上に落ちて參りました時も、お父さんは一言もそれに言ひ及ばれたことはなく、只々默許してゐて下さるといふ有樣でした。けれど私は中老年者として社會に或位置を有ち、職務上の責任とか、義務とかいふことを何よりも重

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

んじて、常に社會や世間といふものを眼中において行動してゐられるお父さんにとつて殊に新思想に生きやうとする青年者として、新婦人としての私の世間を全く無視した若しくは習俗に反抗した思想なり行動が大變或意味での御迷惑になつてゐるといふことを、又それをお父さんと私との間に立つてお母さんがひとりだまつていたましいまでに絶えず苦勞してゐらつしやるといふことを朝夕おふたりの御顔の上に讀んで居ります。御兩親からは萬事に無頓着で、自分のかうと思つたことは何と言つてもせずには置かない、向ふ見ずな、大膽な、人の心を少しも察しない我儘者とばかりお見えになるでせうが、その實人一倍に感じ易い苦勞性な私はともすると自分を忘れてあまりに人の心をそれ以上に察し過ぎるといふ不利な或弱點(少くとも私にとつては弱點と云はれると思ひます。この弱點が時に私をわる遠慮の多い、容易に人と親しまないものゝやうな形をとらせます。私はいつもこれに打勝たうと努めては居りますが。)を有つて居りますから、私の心の中にその事が――私が日頃御兩親に與へてゐる或ものが――暗い影となつていつも〳〵播つて居ります。それから私はこの家庭の人でありながら、この家族の一員でありながら、この家庭の人として、この家族の一員として、他の人達が當然なすべきことゝしてあやしますにゐる家庭内の又その家庭と特別關係ある家庭間の因習的な犧牲や義務の總てを全く拒絶して、ひとり超然と

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

してゐることは私の思想として又私の人嫌なペスミスチックな性情としていかにもさうあるべき當前の事でもあり又自然な、殆どやむを得ない位のことでもあると自からも是認してゐるのですけれど、さうはしてゐるものゝ、感情に於て實際は妙に濟まないやうな、居づらひやうな氣のすることも屢々あるのでございます。私は一つの家庭の中に只一人の到底調和し得ない人のあるといふことはその人自身はもとよりその家庭内の總ての人の不幸だと沁々と思ひます。それに今一つ――尤もこれも以上申述べましたことの中に或は含まれてゐるので、多少それを概括的に云ひ表したまでのことかも知れませんが、私の最も自ら堪へられなく思ふ所は私の思想や主張と私の今の實生活との間の矛盾、不一致と、その矛盾や不一致から貴重な時間や精力を比較的價値のないことに多く消耗せねばならぬやうになつて來たことの苦痛となのでございます。

　で、私もこれ迄もう幾度か、今度こそ御兩親から別れ、この家から離れやう、獨立しやう、新しい生活を始めやう、そのためには今迄躊躇してゐた生活問題にも臆せず飛び込んで行かうと決心してお母さん迄申出て御相談いたしたこともあつたのでした。けれど私の考はその發表の仕方の下手なことも手傳つてかいつもお母さんの御心に徹底させることが出來ず、却て誤解を增し、お互に氣まづい思を重ねる上に無駄な御心配を更に大きくし、いよ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

く事を面倒にするばかりでした。私は親子間で感情を害してゐるといふことはほんとうに面白くないことに思ひますし、それにあまりにおいたはしい御母さまの涙を見ますと、つい、もうそれ以上何も言へなくなつてそれぎり實行の勇氣を鈍らして仕舞ふのが常でした。

けれど私も今度といふ今度はほんとうの決心をいたしました。それで今度は今迄の失敗に鑑みて何も御兩親に申上げないで只管に實行の準備の方を先に急いでして仕舞つた譯なのでございます。

それから此處で特に御兩親に申上げて置かねばならないことがあります。それは外でもありませんが、今回のは今迄幾度か申上げましたやうに家といふものから分れて只ひとりきりになつて生活しやうといふのとは違ひまして、御兩親ももう御承知の昨年の初夏から始終私のところへ訪ねて參りました、そして私が若い燕だの、弟だのと呼んで居りましたHといふ私よりは五つも年下のあの若い畫をかく男とふたりで出來る丈自由なそして簡易な共同の生活を始めやうとしてゐることなのでございます。

幾度か決心丈はしながらも押し切つて決行する丈の勇氣を欠いてゐた私に最後の動かぬ決心を固めてくれたのは、そしてとうと「獨立」を成就するやうにしてくれたのは全くHに對する私の愛の力だつたと信じて居ります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

一體私は妹や弟を有たないといふやうなことも多少關係してゐるのか自分より年下のもの――それが男でも女でも――に對して優しくしてやりたいやうな、可愛がつてやりたいやうな心持を有つて居りましたが、それがこの二三年來殊に明かになつて、自分と同年輩の者や又はそれ以上の者は殆ど全く目にも止まらず、いつも愛の對象として現はれてくるものはずつとの年下の者ばかりでした。そして私はそれらの人に對して姉らしい又は母らしい時には戀人らしい接吻を與へて參りました。私の生活の一部はそれらの人を可愛がることによつて、慰められ、暖められ、柔げられ、潤はされて來たのでした。ところがその人達の中でより多く私の心を牽き、私の心を動かしたのは靜かな、內氣なHでした。私は五分の子供と三分の女と二分の男を有つてゐるHがだん／＼たまらなく可愛いゝものになつて參りました。そして姉や母の接吻はいつか戀人のそれらしく變つて行きました。又HはHで最初は私を怖いものゝやうに只おづ／＼としてゐましたが、此頃ではずつと私に親んで、戀人らしい振舞を見せて參りました。私によつて始めて戀を知つた彼はほんとうに純な心で私を愛してくれます。おかしい程にかばつてもくれます。お父さんは或は獨譯でシヨウのキヤンデイタといふ脚本をお讀みになつたかも知れませんが、私はあの中の女主人公のキヤンデイタと何とか申しました若い詩人との仲をふと聯想いたしました。かうして

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

進んで來ましたふたりの愛はもう一日逢はないと何となく不安で落付いて自分達の仕事も出來ない位になつて居ります。殊に彼にとつては總てが始めての經驗である丈尙更さうなのでございます。私はもう何時迄も解決をつけずにずるずるべつたりに二人が不安な狀態を繼續し、静かな落付いた心から遠ざかり、訪問したり、されたりする爲めに多くの時間を奪はれ、自分達が何よりも尊重してゐる仕事の邪魔になるといふことにこれ以上堪へられなくなつて參りました。

で、何とか早く解決をつけたいと思ふのです。と申すのはつまりふたりの愛を生すか、殺すかの二つの中一つを選ばねばならなくなつたのです。そして私は今度こそ大膽に自分のありとあらゆる力をもつて前者の道を採らうと決心いたしました。私の體質や性格に基く根本生活に於て戀愛の肯定はいろんな意味で可成に矛盾や不安を伴ひますけれど、私はその矛盾や不安の中で、それらに打勝ち、それを踏みこたへながら、ふたりの中にひさたび芽んだ愛を枯さないやうに出來るだけ育てゝ行かう、どんな風な經路をとつて、どんなに發展して、どんな處へ私を運んで行くものか、そして今後どんな未知世界が私の前に開展し、私の思想なり、生活なりがどんなに變化して行くものか一つ行き着く處まで行つて見やうと心を極めました。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Hはいろんな氣兼ねからそれとはつきりは申しませんが、若い、生一本な心で同棲したといといふ強い要求を有つて居りますけれど私は自分の共同生活に不適當な、氣むづかしい、容易に人と同化し得ない孤獨の性質や、疲れ易い體質を知つてゐますし、又かういふ生活が自分の仕事をする力を奪ひはせぬかといふ不安から容易にその氣になれませんでしたが、これも遂とやつてみることに決心いたしました。やつてみた上でもし結果が面白くなければそれから別居の方法をとることにしてもいゝと思ひましたので。尤もこれには色々經濟上の都合も手傳つたのです。(といふのはHは只今の處全然獨力で生活して行く丈の方法がまだ立つて居りませんのに、國からは家の事情で、送金が絶えて居りますので、今可成り苦しい狀態にあります。といつて私ひとりでふたりが別々に暮して行く丈の費用を得ることは今の場合、少し荷重に過ぎるのです。)

それで巢鴨の社から一二丁の處に極、閑靜な植木屋の離れ二階を昨日ふたりで見付けて借りることに極めて參りました。それで實は明日にもその家に引移りたいと思つて居ります。大變突然のやうですが、私としてはもうずつと以前から再三、再四熟考を重ねた上のことで、決して俄の思ひ立ちや、一時の出來心ではございませんし、私の生涯にとつては隨分重大なことなのですから、そして私としてはともかく生活問題に出逢ふのも今度が始め

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

てのことなので、ぐずぐずしてゐてはすぐふたりが生きられなくなるといふのですからほんとうに眞劍なことなのでございます。

御兩親の方でもこれに對していろんな御考もございませうし、又定めて御不滿のふしも多からうと存じますがどうぞ私の申し述べました處を御汲みとり下さいまして、この決心を實行いたしますことをこの際出來ますことならこのまゝで御快く御承諾下さるやうに只々御願ひいたします。私は親と爭つたり、親に對してあまりに理屈を言つてお互の感情を害したりするやうなことは出來る丈いたしたくありませんから、たとへどんなことを仰有いましても皆だまつて伺つてゐる考へでは居ります。けれどどうしてもさうせねばならぬ要求が私共の中から起つて來、そしてその要求を滿すにこれが最良の方法だと熟考の上一旦決心いたしました以上は、今の私には何としてもそれを實行するより外仕方ないのでございます。實行した上で萬一それが間違ひであつて、非常な失敗や、不幸を見る場合がありましても總ての責任は自分にあるこをよく承知して居りますから決して御兩親に御迷惑をかけるやうなことや、人を恨むやうなことはいたしません。又御兩親に對しても同じ家に住んで、別々な生活をしてゐるよりも別々な家に住んで、別々な生活をしながら折々御目にかかつてゐる方がどれ丈面白く、却つて今よりも一層の親しさ、なつかしさを感ずるか知

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

れないと私には思はれてならないのでございます。

それから申し忘れましたが、昨日お母さんから結婚もしないで、若い男と同じ家に住むといふのはおかしい、子供でも出來た場合にはどうするかといふやうな御話もございましたが、私は現行の結婚制度に不滿足な以上、そんな制度に從ひ、そんな法律によつて是認して貰ふやうな結婚はしたくないのです。私は夫だの妻だのといふ名だけにでもたまらない程の反感を有つて居ります。それに戀愛のない男女が同棲してゐるのならおかしいかも知れませんけれど、だから其場合にこそ他から認めてでも貰はねばならぬ必要があるかも知れませんけれど、戀愛のある男女が一つ家に住むといふことほど當前のことはなく、ふたりの間にさへ極められてあれば形式的な結婚などはどうでもかまふまいと思ひます。ましてその結婚が女にとつて極めて不利な權利義務の規定である以上尙更です。それのみか今日の社會に行はれる因習道德は夫の親を自分の親として、不自然な義務や犧牲を當前のことゝして強いるなどいろんな不條理な束縛を加へるやうな不都合なことも澤山あるのですから、私は自から好んでそんな境地に身を置くやうなことゝはいたしたくありません。Hもこんな道理はよく解してくれて居ますから結婚などを望んでは居りません。なほ又私共は理屈の上からでなく只趣味としてもそんなことはいやなのです。私はHが自分の夫だなどゝいふやうなことはあまりに興ざめたことで考へるのも好みませんから。Hも亦往來などふ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

たりで歩いてゐる時、旦那様、奥様などと呼ばれるのを大變いやがつて居ります。そしていつまでも姉さんに弟がいゝといつて居ります。

それから子供のことですが、私共は今の場合（先へ行つてどうなるものかそれは今の私にはまだ分りません）子供を造らうとは思つて居ません。自己を重んじ、自己の仕事に生きてゐるものはさう無暗に子供を産むものではないといふことを御承知頂きたいと思ひます。實際のところ私には今のところ子供が欲しいとか、母になりたいとかいふやうな欲望は殆どありませんし、且はまだ獨立もしてゐませんから世間一般の考から云つても子供を造る資格がありません。又、出來た處でふたりの今の生活ではそれを養育して行く丈の經濟上の余裕も精神上の餘裕ないのですから、造らない考へです。どうぞ其邊の御心配も御捨て下さることを御願ひいたします。尤もお母さんの仰有るやうな意味で形式的に結婚しない男女の間に子供の出來るといふことは只不都合なことである、恥づべきことであるといふやうな考を有つものでないこと丈は申添へておきます。

これで私の最初申上げやうと思つて居りました處はまづ一通り言へたかと存じます。いつもながらの我儘勝手はどうぞ御怒りにならないやうに幾重にも御願ひいたします。私は決心した以上は出來る丈早く實行いたしたいと思ひますし、もう總の準備も整つて居りますから、この上は御兩親の御快諾下さる日を只管に御待ちして居るばかりでございます。

（大正三、一、一〇）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

編輯室より

□正月の三日岩野清子さんの御家で青鞜に關係あるものばかりの新年會の小集がありました。私共內部の人々は皆呼ばれました。定刻を少し遲れて私がまいりました時にはもう、らいてうさんと、荒木さんとが見えて居ました。

泡鳴先生と、清子さんとは既に聯球盤上の勝負で夢中でした。私共も、人が揃ふ迄といふので五目竝べをしたり、敎はりながら聯球をしたりして待つて居ました。其內中野さんと哥津ちやんが御揃ひで見えました、みどりさんと野枝さんと待ちましたけれど、野枝さんは暮れから風邪が未だ治らないので二人とも、とうとう來られませんでした、皆んな殘念がつて物足りないやうな顔をして居ました。あまり暮れない內にと云ふので寫眞を撮りました。泡鳴先生は寫眞師と一緒になつて手傳をして居られます。座敷の者は寒さうに座つたまゝ椽側に顔を向けました。女中は一人々々の顔の傍に蠟燭を映して、顔の檢閱が了みますと、パツとマグネシームが燃えました。眼ばたきをしないつもりで居たに一寸驚かされました。竝んだ顔はすんだ時には變な心持で見合ひました。揃つてトンキヨーな顔にされて居るのは其せいでございます。(卷頭の寫眞參照)會はそれから夜の十一時頃まで談笑の內に樂しく續きました。だん〳〵と卓上には御馳走が運れました。盃は盛に交換されます中で、泡鳴先生と白雨はすぐ眞赤になつて了ひました。

一隅では中野さん、荒木さん、清子さん此の三人はお母さんと火鉢を取りまいて雜談に耽つて居ます。泡鳴先生と辻さんと哥津ちやんの三人は年増藝者を相手に得意の唄をかはる〴〵歌ひました。向ひやつて、私とらいてうさんの二人は靜かに其をきゝながら醉心地よく、聯球をして居ます。五目自慢だつた私も其後手出しないのは清子さんに負かされてから少し閉口して居るのかも知れません。

泡鳴先生とらいてうさんと私の三人での謠がありました、私の調子高い聲に泡鳴先生もらいてうさんも聲が出ぬとこぼしながら咽喉を痛がり痛がり苦しさうにそれでもしまい迄同吟しました。

當夜中の最も傑作だつたのは泡鳴先生の五線紙と首引きの謠だつたとたれかゞ惡口をいつて居ます。

笑ひの聲は途中迄も續いて、寒い夜風に吹かれながら堤を歸つて行つた時はもう月が青い光りを西の空に投げて落ちかけて居ました。(白雨)

□暮の盗難にたたられて、遊ぶ事も出來ないような小さ

な家に引越した爲、社に新年會を開くことの出來ぬかはり電車に便利な荒木さんの御宅で皆さんと面白く遊ぼうといふことに相談がきまりました。

白雨とらいてうの二人はせつ〳〵と二十幾枚のハガキに招待を書いてポストに投げこんだのは前日八日の朝八時頃でした。

皆んなは明日の遊びの趣向に各自の思ひをこらして居るやうでした。

白雨と野枝氏の二人は相談の上一同に「アット」いはせやうと生れて始めての丸髷姿で荒木さんの門をくゞつたのは午後の五時頃でした。

「未だどなたも」

「未だだれも見えませんよ」

「どうしたのでせう」

「一體幾たり見える筈なの？」

「ハガキは二十幾枚書きましたの知つて居る人が六人でせう少なくも十人は入らつしやるだらうと思つてゐますわ。」

「私もうカルタの最中か知らんと思つてましたわ」

「私上かつて來る時人聲がしないので少しは不思議だつたの」

私「もどうした事かと不思議に思つて居たところ」

白雨が大事な、玩具、キラ〳〵と光る奇麗な色取りの裝飾品を三人で部屋に飾りつけて仕舞つてから話ながら安火で皆んなをまつて居ました。

いくら待つても、待つても一人も見えません。やがて夜七時頃、お母さんの病氣の爲一人後れてらいてうが來られました。

「どなた？」

二人は顔を見せないやうに後向いて居たのです。

「あてゝご御覽なさい」

「だれでせう」

「マアー」顔を向けた二人を見比べてらいてうは意外な面持して居ました、

「皆さんは」

「どうしたのでせう」

「まだ一人も」

「エヽ三人きり」

「どうしたんでせう」

「どうしたのでう」

「未だに一人も來ないとは不思議ね」

「變たわね」

こんなを云ひながら四人は安火をかゝへて、夜の十時頃迄しんみりと語りあひました。かうしてこの新年會は了りを告げました。

口らいてうは今度家を離れて府下巢鴨町三ノ三に奥村博

氏と自由なそして簡易な共同生活をいたすことゝなりました。植木屋の離れといふのであたりにあんまり家もなく大變心持のよい家でございます。面會日は、土曜日午前中。

□青鞜社、並に同補助團宛に御年賀頂きました方々に厚く御禮申上げます。

伊藤野惠様、岡田八千代様、長谷川時雨様、房枝様安田皐月様、加藤籌様、上野葉子様、三ヶ島葭子様岩淵百合子様、松井靜代様、坂本眞琴様、川波てい子様、猪野武子様、北村當句様、望月れい様、青木磯子様、木村幸子様、木下八百子様、英彌子様、村田實様

淸平調社岡逸雄様、實文社御一同様、假面社。曆房雲社荻原井泉水様、籾山書店様、布目辰次郎様、西村陽吉様、北隆舘書店様

□新年號の小倉淸三郎氏の「野枝子の動揺に現はれた女生的特徵」の中の校正の誤を左に正しておきます。

誤	正
白血球	赤血球（一三八頁、十二行目）
必理の	心理的の（一四〇頁、十三行目）

なほ續稿を二月號に掲載する筈でしたが、同氏御病氣のため三月號に廻すことになりましたから御斷りいたしておきます。

□エリスの女性間の同性戀愛もいよ〳〵三月號には出來る筈になつて居ます。今は坂本眞琴さんが飜譯に急いでゐられます。

□坂本眞琴さんは昨年の暮れにお母さんになられました。岩野淸子さんももう一日二日の内ださうです。獨身主義だの何のと世間から言はれる青鞜の人達も母としての經驗をもつ方がだん〳〵增えて來ます。社がだん〳〵盛んになつて行くやうでよろこばしく思はれます。

□加藤みどりさんの一番小さい御子さんが昨年の暮にお死くなりになりました。

□荒木郁子さんは小說「火の娘」をお出しになりました。本月初旬尙文堂から發賣するそうでございます。

□村田實氏に。新年號の私のウオーレン夫人の評についで下さいました御手紙は確に拜見いたしました。いつか偶然の機會で御面會するやうな時を待ちませう。（らいてう）

□中谷德太郎氏に。御手紙は拜見いたしました。折角ではございますが「青鞜」には元來男の方のものは一切のせないことになつて居りますから左樣御承知いたゞきたいと存じます。尤も社に直接關係ある先生。（例へば研究會の講師）のものとか社員に直接關係のあるもの（例へば新年號にのせた小倉氏のもの）なごですと別て

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

すけれど。他の雜誌であなたの婦人や戀愛に關する御論文に接する日をたのしみに御待ちいたして居ります。(らいてう)

□奥村博氏畫會の會員が大分出來ました。入會申込、會費拂込は西大久保二〇一白日社か、巣鴨町三ノ三同畫會宛のこと。

寄贈書籍

婦人と道德　エレン、ケイ著　本間久雄譯　南北社發行　定價八十五錢

誘惑　モーパッサン作　前田晁譯　南北社發行　定價八十五錢

戀人　歌集　吉井勇著　たちばなや書店　定價五十錢

サニン　アルツイバシエフ著　武林無想譯　植竹書院發行　定價九拾錢

夏より秋へ　歌集　與謝野晶著　金尾文淵堂發行　定價壹圓八拾錢

新年號寄贈書籍

三田文學　帝國文學　早稻田文學　中央公論

白樺　生活と藝術　近代思想　我等

ホトヽギス　層雲　假面　エゴ

六合雜誌　歌舞伎　心の花　婦人評論

女學世界　みづゑ　藝文　モザイク

新佛敎　音樂界　中央文學　秀才文壇

關西藝術　支那と日本　珊瑚　東京通信

婦女新聞　サンデー　麵業新報　塔

讀んだものゝ紹介

サニン(上卷)　アルツイバミエヴ作　武林無想庵氏譯

千九百八年の露西亞、讀書界で大評判なとつて、あんまり文藝上の取締りのきびしくない西亞政府から發賣禁止を命じられて間もなく、獨、佛に飜譯されて、その作者ミカエル、アルツイバミエヴは全歐に文名を揚げた「サニン」の飜譯でございます。

この小說の本には、ほんとうに魂のある人間ばかりが出てまゐります。その人達が皆な赤裸に書かれて居ります。――文學愛好の方には是非御讀をお勸めいたします。

(植竹書院　定價九十錢)

雜誌規定

- 毎月一回一日發行
- 定價一册金貳拾五錢（郵稅壹錢五厘）
- 前金購讀料（四ヶ月分）壹圓（六ヶ月分）壹圓五拾錢（八ヶ月分）貳圓（十ヶ月分）貳圓五拾錢（一ヶ年分）參圓
- 廣告料（一頁）特三十五圓、一等二十圓、二等十五圓、三等十圓、（半頁）七圓
- 振替貯金口座は（東京二一一一六青鞜社）に拂込まれたし。
- 郵券代用は一錢切手に限る（但し一割増のこと）。
- 編輯事務、雜誌購讀、圖書雜誌、補助員會費拂込、廣告申込、交換廣告は青鞜社へ。
- 販賣に關する一切の事務は尙文堂へ。
- 原稿〆切期日は毎月十日限とす。

大正三年一月二十八日印刷納本
大正三年二月一日發行

禁轉載

東京府下巢鴨町字巢鴨一一六三
青鞜社內
編輯兼發行人　中野初

東京市麴町區飯田町五丁目六番地
印刷人　中山千二

東京市麴町區飯田町五丁目六番地
印刷所　大正社

發行所　東京府下巢鴨町字巢鴨一一二七　青鞜社
振替東京二一一一六番

發賣所　東京市神田區南神保町十六番地　尙文堂書店
電話本局四二五四番
振替東京一九三四四番

會員募集

青鞜社補助團規約

一、青鞜社補助團は青鞜社の事業を完成せしめんがために經濟上の補助をなすを以つて目的とす

二、本團は其目的を遂行せむがために理事一名、外に會計主任及係員を置き一切の業務を處理せしむ。

三、本團は左の方法により九月一日より十二月卅一日迄會員募集をなす。

1、甲種會員　一ケ月會費　壹　圓

2、乙種會員　一ケ月會費　五拾錢

四、本團の會員たらむとするものは其目的に贊同し、第三條の會費を入會の月より滿貳ケ年間納むるものとす。

（但し會費領收は青鞜紙上に發表し、別に領收書を出さず）

五、本團は會員に對し青鞜社發行の機關雜誌「青鞜」を每號贈呈す。

六、甲種會員には會費全納後なほ滿貳ケ年間は雜誌「青鞜」と青鞜社出版圖書とを其都度贈呈す。

乙種會員には滿貳ケ年間雜誌青鞜のみを贈呈す。

七、本團會員は甲種なると乙種なるとに拘らず、女子に限りて「青鞜」に寄稿し得るの特權を有す。

但し寄稿が二回以上「青鞜」紙上に掲載されたる場合は本人の希望により相當の手續きを經て青鞜社の社員たる事を得。

八、入會申込者は期日内に左の書式により府下巣鴨町、一一六三青鞜社内青鞜補助團宛に申込まれたき事。

會費は每月五日迄に振替口座東京貳壹壹壹六青鞜社内補助團宛に拂込まれたき事。（郵劵代用一割增）

但し會費未納者には本團より集金人を差向くる筈。

九、會費は大凡三ケ年間確實なる銀行に預金し、其後に於て全金額を青鞜社に寄附するものとす。

一〇、會計報告は年一回以上便宜の方法を以て會員に發表す。

一一、この規約は理事、會計主任、係員によつて事務の細則を定め、又會員多數の意見によりて變更する事を得。

理事　保持白雨

會計主任　岩野清

係員　伊藤野枝

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

轉居

府下巣鴨町三ノ三

平塚明

面會日

土曜日午前中、私宅

同　午後、本社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

奥村博氏畫會

奥村氏の作品油書をほしいと云ふ人が大分にあるし、それにまだそれ程多くの人に知られてゐない君を、一部高級な藝術愛好者の間に是非紹介したいといふ希望から、茲に吾々が發起して同氏の畫會を起した次第です

奥村氏の作品に就ては愛好者諸氏の鑑賞に任せて、多く語るのを欲しませんが、唯その隱健なブラッシに氏の好んで用ふる黑は自ら獨創的品位と氏の個性を表現してをると思ひます。氏の藝術に同感し共鳴を感ずる人々に、是非此畫會に入會していただきたいと思ひます。

猶氏は大正三年春東京(會場未定)に於て作品展覽會を開かれる筈です。

■甲　八號　額縁付　十二ケ月拂　毎月　貳圓

■乙　スケッチ板　同　八ケ月拂　毎月　壹圓五拾錢

■丙　スケッチ板(小)　同　五ケ月拂　毎月　壹圓

■拂込の最後の月に、申込順に作品をお送り致します。

■申込所。(申込とともに最初の分を拂込んで下さればよろしいです)

東京府下大久保西大久保二〇一白日社内　奥村博氏畫會

東京府下巣鴨町三ノ三　奥村博氏畫會

發起人
前田夕暮　津田青楓　山村暮鳥　田村俊子　岩野清子　平塚明子

賛助員
相馬御風　宇和川通喩　朝倉文夫　保持白雨　中野初子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

相對

「小倉清三郎氏の月刊研究録である性的生活の眞摯な記錄が最も冷かに最も確實に少しの藝術的誇張もなく而して最も自然に發表されてゐる。凡てがまた科學上の眞實な研究に基く。私はこの愼ましやかな薄い小冊子に何時も少からぬ興味と尊敬とを持つてゐたいと思ふ」（ザムボア）

非賣品。會員組織にて特志者のみに配布。一年分約三百頁。これを十二集に分割して發行。會費一年分一圓八十錢半年分九十錢（前納）。第一年半期分既刊。委細は著者へ御照會のこと。

青鞜の一月號で相對の研究會及び講演會の一月分の豫定題目を申し上げて置きましたが私の病氣のためすつかり休んで仕まひ誠に濟みませんでした。いづれ本復したら又そろそろ初めやうと思つて居ります。

本郷駒込林町二三〇
小倉清三郎

第壹回　狂言座

日時——二月廿六日(木)廿七日(金)廿八日(土)午後五時開演

場處——帝國劇場

■新樂劇
浦嶋
坪内逍遥氏作

■新史劇
曾我
森鷗外氏作

目下會日募集中此際申込を乞ふ。會員は場處撰定の便宜あり。御申込次第規則書送附すべし。

京橋區新佃島町三番地
狂言座假事務所
（電話京橋一六六一）

顧問
森鷗外
夏目金之助
佐々木信綱

相談役
田村成義

俳優
尾上菊五郎
尾上榮三郎
尾上芙雀
中村兒太郎
中村榮吉
市川男寅
尾上紋三郎
尾上樂之助
尾上菊三郎
尾上伊三郎
尾上卯之助

舞臺監督
松岡靜文

代表者
長谷川時雨

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

(第二十巻) 帝國文學 (第二號)

二月號

(定價 金二十錢) (郵税 一錢五厘)

△誤られたるイブセン（評論） 片山孤村

△クライストの最後（戯曲） 成瀬極無

△前途（詩） 茅野蕭々

△海鷗（戯曲、チエエホフ） 伊東六郎

△思ふやうに（小説、ポタアペンコ） 小林愛雄

△早春（短歌） 鳴澤寡人

△昨秋の英國劇壇（海外騒壇） 石本笙

△一月の文壇（時評） 山田檳榔

△表紙繪 矢代幸雄

其他新刊批評、消息等

京橋銀座一丁目廿二 大日本圖書株式會社 振替東京二一九番

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

珊瑚

二月號

□二月一日發行□定價二十五錢□

イスパニア畫派（評論）　岩井尊人

大晦日（小説）　泉靜緒

眞珠（ザイツエフ）　馬場哲哉

蘇生（ロマン・ロオラン）　内藤濯

夕さくら草（小説）　道ノ上六郎

美（ソログープ）　松永秋雄

劇場と位置（評論）　片山誠二

珊瑚社詠草

海外消息

藝術座合評　同人

口繪（原色版）……アコスタ

發行所　東京南千住九四五　電話下谷五八〇七番　珊瑚社

現代の洋畫

廿三號　　版畫號　　二月號

■地方諸君のため見本として舊刊一册十錢にて頒分す■

□插畫□

□ダーリヤ(木版八色刷)……岡本歸一
□カフエの女(同　三色刷)……太田三郎
□風景(同　五色刷)……岡本歸一
□競馬場(同　三色刷)……カンジンスキー
□風景(同　四色刷)……岡本歸一
□夕の街路(同　)……同
□木版畫寫眞版……十枚
□一色木版畫……參枚
山本鼎、南薰造、津田淸楓、太田三郎、岡本歸一、新年繪ハガキ、富本憲吉諸氏

□記事□

□藝術と公衆……木村莊八
□立體派(四)……松本文雄
□レオンバクスト……待許生
□畫室にて(對話)……三並花弟
□木版畫の復興……林田春潮
□木版畫に就て……岡本歸一
□葛飾北齋……松本文雄
□版畫の年賀版……北山淸太郎
□木版畫に對する諸家の說……
齋藤與里、岸田劉生、森田恒友、坂本繁次郎、木村莊八、津田靑楓、南薰造、岡本歸一、峯島尙志の諸氏執筆……其他

■ゴオホ畫集(六枚一組)發行す送料共六十錢■

本號特價四十錢(送料共)

發行所　小石川區江戸川町九　振替口座東京四三七三　日本洋畫協會出版部

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

毎月一回一日發行
一冊 金二十五錢
郵税金 一錢五厘

斯道唯一の演劇雜誌

歌舞伎

百六十四號（二月一日發行）

六冊前金郵税共
金一圓五十錢
十二冊以上
金二圓八十錢

中村歌右衛門論……覆面せる人

筆者は劇道の表裏に精通せる某文士、現代俳優の長者たる歌右衛門を捉へ來つて月旦す、擒縱自在。

『解脫』の型……森ほのほ

歌舞伎十八番の此の曲を吉井勇氏が新作して左團次之を上場す、其の一擧手一投足を詳叙して舞臺を見るが如きもの此篇。

稻妻（ストリンドベルク）……森鷗外

ギヨツツ（ギヨオテ）……同上

京阪歌舞伎年代記……青々園

續無線電話……室田武里

一月の劇場……青々園

大風（第二幕）……戸田一外

尾上梅幸藝談……鈴木春浦

故團十郎と菊五郎とに薫陶せられし技藝の秘訣を語りて滔々として盡さず、歌舞伎劇の虎の卷。

著作權と脚本……一記者

前號に坪内博士の鑑定書を載せたる本誌は更に著作權法の沿革に溯りて、劇界の恐慌に一道の光明を投ぜんとす。

東京本郷湯島切通坂町畫報社内

舞歌伎發行所

電話下谷二四八三　振替口座一八一〇六

心の花

第十八卷　二月號　第二號

トビアス（小説）　英與市
詩人ミラアの形見　金子健二
西班牙の旅　小林萬吾
猿　三浦守治
南清小品　白岩つや子
隣の人々（ヘツベル）　吹田芦風
赫き渚（小説）　原田謙次
故大西祝博士の書簡
狂女メリイ　小花清泉
海賊の船　片山廣子
をとめの日記　松田澄子
萬葉集講義　佐々木信綱
西片町より　佐々木雪子
芭蕉の臨終と俊成の最期　竹柏園主人

定價一部金二十錢・半年前金一圓・一ヶ年金二圓・税共

東京日本橋區　竹柏會出版部　本石町一ノ一

電話本局五一七〇番　振替東京四三〇〇番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

新思潮

復興號

(一部廿五錢)　二月十一日發刊　(郵稅一錢半)

□演劇論……小山内薫
□本質美の表現としての象徴……山宮允
□生を與ふる神……佐野文夫
□生の統一的眞景……松岡譲
□湖水と彼等(小説)……豊島與志雄
□未來のために(小説)……松井春二
■四民(戯曲)……井出説太郎
■此の諫言お用ゐなくば(戯曲)……久米正雄
■シイザアとクレヲハトラ(ショオ)……菊地比呂志
■ベルタサアル(アナトウル、フランス)……春陵金子
■死の舞踏(ストリンドベルヒ)……山本有三
■無何有の郷(イエーツ)……山宮允
■創作評感想等……同人

發行所　東京日本橋區本銀町三ノ二　振替口座東京一二〇五五番　啓成社

編輯所　本郷四丁目四十九　小林方　新思潮社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

月刊美術雜誌

みづゑ

二月三日發兌

第百八

送料共廿五錢

□TAGUAR AND MACOW（水彩畫原色版）……J. M. SWAN
□塵土燒（同）……後藤工志
□赤き村の午前（同）……赤城泰舒
□山中湖（同）……大下藤次郎
□シマゲンコロウ應用圖案（チンク版）……織田一磨
□シイザー（テンペラ畫寫眞版）ラファエル
□英國の水彩畫……鵜澤四丁

□偶言……津田黄昏
□水彩畫の研究……白瀧幾之助
□昆虫を應用したる圖案……織田一磨
□風景描寫法……丸山晩霞
□廣重の東海道五十三次錦繪……小島烏水
□石井柏亭氏の結婚……丸山晩霞
□丁君との對話……藤田紫舟
□新三脚物語……鵜澤四丁

□みづゑは本邦最古にして且唯一の水彩畫研究專門雜誌なり

□水彩を描く人は勿論愛好せらるゝ諸士は一日も本誌を座右に欠く可からず

發行所　東京小石川關口駒井町三番　振替口座東京六九六三番　春鳥會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

生活と藝術

二月號

■一青年の手記……荒川義英

作者は今單に無名の一青年に過ぎない。しかしこの一篇は最近僕らの連中の間に一讀されて、いろいろの意味から問題になつたものである。堺利彦氏などは、さきに『昨年中に於ける文壇の收穫』として時事新報紙上にこの一篇を推薦した。其觀察の獨創的なると其文字の新味あるとに感心したと公言した。實際荒川君は堺氏の言ふ通り、一面から見ると一個の不良少年に過ぎないが、一面から見ると一個有爲の才人である。この百頁に足らぬ雜誌が大部分を擧げて之を發表するのは決して物ずきではない。（土岐哀果）

■地上（歌）……土岐哀果

■新しき歌…青年百余家

定價一册十八錢郵稅一錢

出版通信

■年四回刊行の『未來』は豐富な實質ある内容を以て第一輯が市場に送り出された。この册子に筆を執る人達は藝術を最も正しき意味に生かさうとする抱負をもつて集つてゐる。菊判三百五十頁、定價六拾錢、送費六錢。第二集は三月十五日發行。

■三月一日から新らしい月刊女流藝術雜誌『番紅花』が高級な婦人達のためにその机上に薦められる。

■出版目錄は希望のお方に御申越次第御頒ちする。

發行所　東京市日本橋區檜物町（振替東京五六一四番）　東雲堂書店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

第二卷
第二號

エゴ

二月一日發行
定價貳拾五錢

第二月號

自分の事（脚本）　千家元麿

暴力（脚本）　佐藤惣之助

病癒えて（小說）　成田泰次郎

詩　佐藤惣之助

自我の爲めに（感想）　千家元麿

ゴヤ評傳（翻譯）　成田吉次郎

ゴヤについて（感想）　千家元麿

挿繪　ゴヤ筆六枚（寫眞版）

附錄　巨人ストリンドベルグ傳　成田泰次郎譯

發行所　東京市小石川區西江戶川町九　日本洋畫協會
編輯所　東京市牛込區新小川町三ノ三一千家方　エゴ社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

定價金十二錢

近代思想

第二巻第五號

二月號

題未定（評論）……相馬御風

題未定（評論）……安成貞雄

人と馬との對話（對話）……荒畑寒時

人間屠殺所（小説）……佐藤緑葉

近代思想　第一巻合本　金壹圓

胡麻鹽頭（雜錄）……堺利彦

題未定（詩）……土岐哀果

題未定（小説）……安成二郎

題未定（感想）……大杉榮

東京府下大久保町　近代思想社　振替東京三六一七一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

假面

■定價三十錢■

■郵税金二錢■

第三卷第二號　二月號

挿畫

■ニグロの女（キセレーワ）
■最近のクープリン
■シエエラザード（リース）
■洗禮（ペッテルソン）

□ウェルテルの性格とその時代（ブランデス）……矢口達
□古風な月（長詩）……日夏耿之助
□矜持（小説）……伊東六郎
□疑惑の魔（小説）……見留周造
□生れなかつた生命（印度古詩）……増野三良
□妙な女（コロレーンコ）……瀬戸義直
□藻鹽草より（感想）……丘草太郎
□プロテア（小説）……尾島菊子

附錄

評論 フロオベルの研究……後藤末雄

假面社編

近代評傳叢書

第一篇　吉江孤雁　**モウパッサン**

第二篇　西條八十　**メエテルリンク**

袖珍頗美本　定價五十錢　郵税金六錢

發行所　東京市外西大久保百三十一　假面社

發賣所　東京神田錦町一丁目十九　振替東京四一二三番　中興館

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

■モザイク■

貳月發行第二十二號內容

雪後（小說）……雷長左衛門

生の斷片（小說）……藤井伯民

苦悶（小說・シユンツレル）……秦豐吉譯

地上の諸普（譯詩）……川路柳虹

人生の斷片（小說・ストリンドベルヒ）……野上臼川譯

當然の事（小說・六十頁）……水島爾保布

觀劇の後（感想）……山本露葉

二種の『サニン』（批評）……林豐一

本號金二十五錢郵稅一錢五厘

東京市下谷區　モザイク社　中根岸町六九

現代青年唯一の好師友

中央文學

第二卷第二號　二月號　壹冊 金拾五錢　郵稅 金壹錢五厘

▲（口繪）□書齋に於けるゴーリキイ氏□作物の背景（ベニス）□「海の夫人と熊」の舞臺面□文學者の故鄕（谷崎潤一郎氏、久保田萬太郎氏）

◉德川文學の鑑賞と其の準備（評論）……文學博士 佐々醒雪

▲文章座右銘……六名家

◉新進作家月旦……ＺＺＺ

▲文藝閑話……兎耳子

▲舞臺稽古の日……如月

◉書齋より　水野葉舟

▲無駄言……天火樓

▼落日（小說）……小川未明

▼犬の威嚴（小說）……水野仙子

▲新文範（本誌獨得の記事。現代の文章の評釋）

◉代表歌人の歌……窪田空穗

▲新兵が歌へる（歌）……並樹私人

▲文章質疑……

◉文章講壇（本誌獨得の記事益佳境ス）

▲故事熟語解……

◉大地を離れた人（評論）……吉江孤雁

▲（懸賞）□小說（秋聲選）□散文（雨雀選）□長詩（露風選）□歌（通治選）□俳句（鳴雪選）□書翰文（修選）□短文（道三選）□論文（編輯局選）

發行所　東京神田今川小路　忠誠堂　振替東京二〇四三一　電話本局四九六六

夏目漱石先生序　野上彌生子譯

▼▼最新刊▲▲

傳說の時代

菊版美裝約八百頁
挿入寫眞五十枚
希臘古彫刻等皆珍品
定價金二圓
郵税金十二錢

文藝界の大寶庫

神と英雄の物語

▲文學者の寶典＝畫家の畫題＝説教者の材料＝家庭の好讀物也
▲近代上代を通じ西洋文藝を味ふには神話知識が根本的必要也
▲此書は希臘羅馬の神話を初め埃及北歐印度西藏の傳説を含む
▲原書はヴアージルオヴイツド以下一千餘種古典研究の産物也
▲小説よりも面白く書かれたる人間の想像力の無限大を示せり
▲譯者は今日迄此翻譯の如き興味を以て勞作を續けたる事無し
▲挿入五十個の寫眞は二千年前の彫刻を初め悉く古藝術の珍品

東京市神田區
南神保町十六

尚文堂書店

電話本局四四二五四
振替東京一九三四

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

賣文社々長 堺利彦先生譯

バアナード・ショウ作 人と超人

飜譯界、演劇界、出版界に多くの問題を提供せむとす

三六判美本 定價九十錢 郵稅八錢

ショウ熱全盛の今彼の最大作の譯書出づ彼れの生命哲學彼の兩性觀彼の皮肉彼の諷刺彼の滑稽彼の冷嘲彼の熱罵悉く此の一篇の中に在り

譯書内容 本文の外、譯者の序、原著の序及原著通俗版の序、ショウ人物月旦、著作、革命家必携及其座右銘、私が倫敦で見た人と超人（松居松葉等あり）

堺利彦先生著書數種

▲樂天囚人 定價六十錢 郵稅八錢

▲ルソー自傳 赤裸の人 定價壹圓 郵稅八錢

▲賣文集 定價壹圓 郵稅八錢

▲社會主義倫理學 定價壹圓 郵稅八錢

東京小石川區原町 振東京一五六八六 丙午出版社　東京小石川區原町 振東京一三五三番 雜聲堂

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

自由講座叢書第一編

定價金六拾錢　郵稅、一册金四錢

東京神田南神保町十六　尚文堂發賣

二六新聞の批評

「近頃になつて文藝趣味は人間の本來性であるが如くに擴まつて來た。そして必然の要求として見られる程に文藝に對する渴望は若い人逹の感性を湧き立たしめて來た。此の要求に副ふ目的で生れて來たのが自由講座である。（自由講座同人曰く、自由講座の成立には今少し、[illegible]的の目的があります。）本年三月産聲を揚げてから以來毎週二回づゝ、人も我も許した大家の講演が開かれて來た。其の講演には隨つて充分の價値と權威が横溢してゐる。その講演を集めたものが即ち此の書物であつて、

△露西亞に於ける文藝と實生活（昇曙夢）

△メレディス論（平田禿木）

△イプセンとドスヽイフスキイ（片山伸）

△『サラムボオ』（生田長江）

△ドストイエフスキイ研究（森田草平）

△チェームスの哲學（中澤臨川）

△建築美に於ける材料の謎（山崎樂堂）

△問題としての性欲（野上臼川）

の八篇が收められてゐる。眞面目な文藝の研究者ばかりでなく、苟くも文藝に趣味を有つたものは、好箇の參考書であり、文伴侶である。固に此の叢書は引き續いて續篇を出すそうである。」（十一月十八日）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

露國文學士 メレジュコーフスキー原著

文學士 森田草平 文學士 安倍能成 共譯

最新刊

人及藝術家としてのトルストイ 並にドストイエフスキー

「◉人としての分」（上巻）森田
「◉藝術家としての分」（下巻）安倍

◉全一册

橋本邦助氏裝 四六判上製美本 肖像三枚入
正價金一圓五十錢 郵税十四錢

此書は文明批評家として當今世界第一人者と言はるゝメレジュコーフスキーが靈肉一致を唱導する象徴主義の立場からトルストイとドストイエフスキーを評傳したるものである。即ち文豪の書いた文豪の評傳である。一度此書を繙かば、其人の人生観なり藝術観なりを一變せずには止むまい。譯者は始終興奮を以て此書を譯了した。小說よりも面白い論文である。尚本書の英譯は誤譯と脱漏とに充つ。英譯を讀む程ならば、獨逸譯に據れる此書を讀まるべきである。

新刊

一葉草紙（ひとはそうし）

もと時事新報記者 もと一葉茶屋女將 下山京子女史著

◉橋本邦助氏裝及挿畫、及び寫眞版各一枚入（五枚）コロタイプ版 ◉正價九十錢 郵税十錢

目次

◉男道樂—十八章 ◉木屋町物語—九章 ◉一葉茶屋色懺悔—十八章 ◉一葉小話—十章 ◉仲居變裝記—二十一章

問題の著者が放膽忌むなき告白及び感想即ち一種の女性が一種の男性観、戀愛観、人生観等、亦これ時代研究の一資料

版元 東京神田區雉子町 玄黄社 電話本局二〇番 振替東京七九九五番 全國有名書店ニ賣捌

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

文學博士　村上專精先生自叙傳

六十一年

一名 赤裸々

三六版美本
定價九十錢
郵税八錢

▲惡戰苦闘の立志傳、明治佛教の側面史▼

これ村上博士が過去六十一年間惡戰苦闘の活歷史を大膽に赤裸々に叙述せられたるものにして現代青年が以て龜鑑とすべき絶好の立志傳たり殊にその間に於ける佛教の盛衰消長及び教界人物に對する忌憚なき評論は明治佛教の側面史として教家の一讀を要求するに足るの實益と趣味さを具有する大文字にして眞にこれ教界未だ有らざる自叙傳なり

▲村上專精博士著作數種▼

▲（通俗）修養論　定價一圓　郵税八錢
▲女性訓　定價四十錢　郵税六錢
▲科註大乘起信論　定價十六錢　郵税二錢
▲（増補）自信録　定價六十錢　郵税八錢
▲誡のしるべ　定價四十錢　郵税八錢
▲科註原人論　定價十二錢　郵税二錢

東京小石川區原町　振東京一五六八六　丙午出版社
東京小石川區原町　振東京一三五三番　雞聲堂

芝園隠士編

■新刊■

艶態美人文學

本書は和漢の歴史●佛經●小説●淨瑠璃●戯文●雜俳●和歌●漢詩●狂歌●川柳等に寫されたる十二一重の姫様より河岸の夜發に至るまで凡そ美人といふ美人の容姿性格意氣言動狐媚嬌音の千様萬態を縦横に曲盡したる文字を集録したる奇々珍妙の新書なり。

四六判[illegible]裝全一冊
紙數九百八十頁
定價金壹圓参拾錢
送料金拾貳錢

岡倉由三郎監修　荒木秀一著

■新刊■

近代劇物語

人生のフレッシな刺激に觸れんとする者は是非近代劇を讀まねばならぬ去れど劇其儘では却て解しにくい。本書は「ショー」「メーテルリンク」「イプセン」「トルストイ」「ワイルド」の名篇を物語風に書下したもので一讀何人も全篇の筋立と其趣味を味ふことが出來る。

菊判清裝全一冊
紙數貳百五十頁
定價金六拾五錢
送料金六錢

東京市京橋區銀座[illegible]　大日本圖書株式會社　郵便振替口座東京二一九番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

四版

小說と脚本の飜譯集

邦譯近代文學

野上白川氏譯

津田青楓氏裝釘
表紙鳥子六色刷
箱入四六版美本

萬朝報批評

凝りに凝つたる裝飾と相俟つて翻譯全盛時代の現文壇に一個の光靜な放下したる觀なくんばあらず。斯くの如き好譯文の盛んに出版されて貧弱なる我文壇の内容の日一日と豐富にされて行くを見ては吾人は歡喜の榮を禁ずる能はず

紙數五百三十頁
定價壹圓貳拾錢
内地小包料八錢

謎の女（オスカア・ワイルド）
氣味のわるい求婚者（ウェデキント）
ベルタ（モオパッサン）
マルセィユ歌（アンドレーエフ）
木乃伊の片足（ゴーチエー）
汗父子（ゴーリキイ）
あひびき（ツルゲーネフ）
マダム・ピィルソン（ミュツセエ）
ねぼすけ（チェーホフ）
マリヤの手品師（フランス）
七人の姫（メエテルリンク）
母の愛（ストリンドベルヒ）
彼はなぜ彼女の亭主にうそをついたか（ショオ）

東京市神田區南神保町十六
尚文堂書店
電話本局四二五四
振替東京一九三四四

増補三版

近代十四大家の十四英譯集

MOMENTS WITH MODERN GREAT WRITERS

(一名 英文近代文學)

—(脚註及作家略傳)—

文學士 野上臼川氏 校訂

四六紙裝 二百二十二頁 定價四拾九錢 送料四錢

Andreyeff: Ben Tobit
Tolstoi: Where Love is, God s
Oscar Wilde: Model Millionaire
Strindberg: Half a Sheet of Papers
Mérimée: Taking of the Redoubt
Wedekind: Rabbi Ezra
Pierre Loti: Mme Chrysanthéme
Tchékhoff: Sleepyhead
Maupassant: Bertha
Gorki: Khan and His Son
Anatole France: Our Lad'y Juggler
Turgeneff: The Tryst
Bernard Shaw: How He Liedto Her Husband

東京市神田區南神保町十六 尚文堂書店 電話本局四二五四 振替東京一九三四四

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

MAISON. KÔNOSU

鴻乃巣が小網町で產聲を揚げてからモー五ッになります。モット育つ筈で御座いましたのに小さくなつて當木原店へ現れました。

料理は以前よりもズットうまくなりました。それは小さい鴻乃巣になつたからです。大きくなるとますくなるかも知れません。

チヨトした宴會をお催し下さる方ばいか樣にも御望みに任せ御便利を計ります。

日本橋區壹ノ七木原だな

メーゾン 鴻乃巣

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『三越に委せ都の人となり』（文藝の三越當選川柳）

三越呉服店は現代流行品の總てを販賣いたして居ります。日本の流行は東京より出で、東京の流行は三越より出づるのでありますから、三越呉服店は御調製を仰せ付けくださりますれば、頭の先きから踵まで時代に後るゝ様な事はございません。東京式の服裝は此を三越より求めらるべく、安心して御買物に出來ます店は我が三越呉服店であります。

三越呉服店

東京駿河町

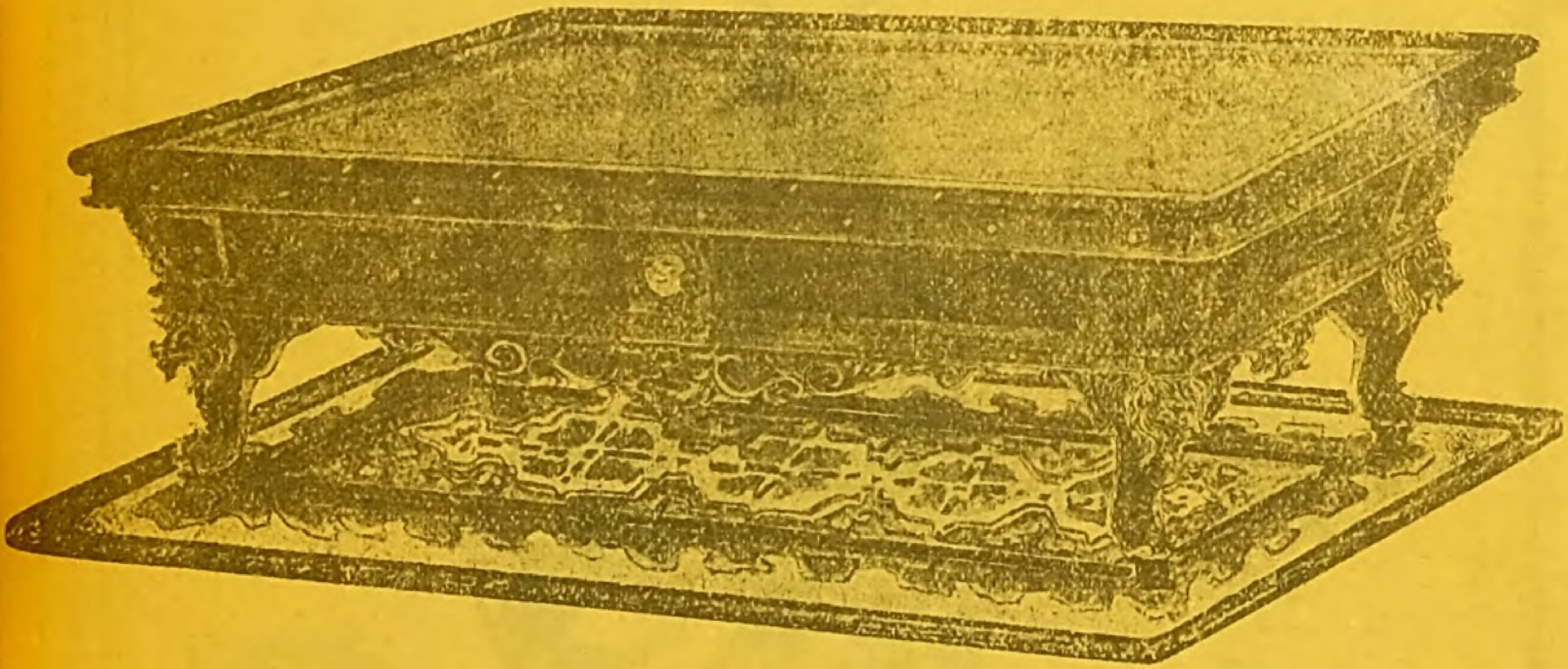
御婦人向文房具

伊東屋の階上には進歩的な智識的な
御婦人向文房具が澤山陳列有之候
御高覧願はしく御待受申上候

銀座
伊東屋

電話京橋三二九
七九六
振替口座五二一

最新式玉突臺



玉突臺附屬品一式

御一報次第「カタログ」送呈仕候

製造販賣所

東京市京橋區鎗屋町一番地

中村商店玉突臺販賣所

電話京橋一九六七番

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

カフヱープランタン

此度當プランタンは二階を擴げて食堂を新設致しました一度御來遊を願ひます、私の嗜好は私の店を街中と云ふ感から離し度思つてゐました、そして此度新設した食堂は多少成功したと存じます。

海邊の様な氣持のするヴエランダで日吉町の暗い通を見下ろしながら召上るコーヒーは趣味の無いものではありません。

階下は著名な文士書家の落書が壁の殆全部をうづめてます、不用意の間にそれ〲面目が表はれる所或は極端に皮肉なカリカチユアー一度では見つくせぬ程興味のあるものです。

ドーぞ御來遊の程祈ります、そしてプランタンは常に趣味の上に立つてる事を御覽下さい。

カフヱープランタン

松山省三

營業時間　午前十時頃ヨリ午前一時頃迄

テーブルドツト　金壹圓

ランチ　午前十一時ヨリ午後二時迄及午後五時ヨリ七時迄

A 三十錢　B 五十錢

ハンバクステキサンドウ井ツチ

カキフライサンドウ井ツチ　金十二錢

年末年始の御贈答になる様茶菓券を發賣致します

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

損の生一はるざは習時一はふ習れ來

本會贊助員

正二位勳一等伯爵　土方久之助君
從位勳一等子爵　川村影明君
前文部大臣　長谷場純孝君
帝國大學教授　和田恒謙三君

速成習字學會

主事　文學士　原龍豐
主任教授　高橋九皐

速成習字教授

會員募集

□六ケ月卒業
□束修全免
□會費六十錢
□小學兒童に限り五十錢
□隨時入會

□本會は主任教授高橋九皐先生が自から手を把つて親切丁寧に敎へて下さいます。
□惡筆無學の人でも六ケ月には能筆者となる事が出來ます。
□毎日でも、隔日でも、又日曜日だけでも、當人の便宜な時に習ひに來れます。
□地方の會員には特に獨特な通信式教授をいたします。
□東京の方でも、便宜により地方會員と同じく通信教授といたします。
□惡筆は一生涯どんなに自分に損だか知れません。
□葉書又は電話で御申込次第規則書送呈いたします。

神田錦町三ノ六（正則英語學會前）
速成日本習字學會
電話本局五二七二
振替東京二五一五

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

第一巻第一號

我等

二十五錢
郵税二錢

二月號

短歌　募集

木下杢太郎……窓の夫人（ホフマンスタール）
高村光太郎……未來派の婦人觀
佐藤春夫……歌
白井柏亭……途であつた人達
平野萬里……クリスマス前
茅野蕭々……詩
森林太郎……譯詩九編（デーメル）
……水のあなたより
和辻哲郎……ニーチエの自己觀察
萬造寺齊……ゴルキイ論（クロポトキン）
竹友藻風……詩
募集短歌……

我等發行所
東京市本郷區駒込林町百九十番地

岩波書店
東京市神田區南神保町十六番
振替東京一六二四番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

美の廢墟

二月號要目

挿畫

- 信據の王領（紙表）　彌太
- バルコンの家族　ゴーヤ
- 舞踊の報ひ　ピヤズレエ

（創作・感想）

- ある夫婦　岸田劉生
- 街路（詩）　伊藤彌太
- 感想　伊藤君に（莊八）　木村君に（彌太）
- 岸邊に佇みて（詩）　遠藤大
- 雜誌と私の立場　立石美和

翻譯

- 戲曲　死の舞踏（ストリンドベルヒ）　木村莊太
- 戲曲　嵐（オストロフスキー）　立石美和
- 戲曲　大陽の光（ズーダーマン）　川見島一

毎月一日發行　東京市神田區今川小路一ノ五
美の廢墟社
電話本局四三一六
振替東京二六四四
定價　金廿五錢

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

行人

夏目漱石著

新刊

橋口五葉装幀
背革美製全一冊

漱石氏最近六百廿有餘頁の長篇もの、新春第一の好讀物は之を措いて他に索むべからず敢て江湖に推奬す

正價 金壹圓七拾五錢
送料 金拾貳錢

東京、日本橋 大倉書店

夏目漱石先生著

文學論
菊判極美製全一冊
正價金貳圓二十錢 郵税十六錢

寸珍 我輩は猫である
装幀嶄新
美製全一冊

合本 我輩は猫である
正價金壹圓參拾錢
郵税金八錢

漾虚集
菊判装幀上乘全一冊
正價金壹圓四拾錢 郵税十二錢

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

小説

火の娘

森林太郎先生題詞

荒木郁著

尾竹一枝書

定價六十五錢

郵税六錢

東京市神田區南神保町十六番地

尚文堂書店

電話本局四二五四

振替東京一九三四四

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

昭和45年2月28日発行　【第8回配本】

青鞜第4巻 2月号

編著者　平塚らいてう
発行者　藤原正人
発行所　(株)明治文献
印刷　江明印刷
製本　(株)三高製本

【分売はいたしません】　定価 4,500円

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ASN
PER
PL
756
S45
v.4
no.2

University of Colorado at Boulder
U18304 6746385

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER